

ほっかいどうじしゅやかんちゅうがくこうりゅうかい  
北海道自主夜間中学交流会

さっぽろえんゆうじゅく ねん つど  
札幌遠友塾25年の集い

き ろく しゅう  
(記録集)



にち じ ねん がつ にち  
日 時：2015年9月12日

ば しょ さっぽろしきょういくぶんかかいかん  
場 所：札幌市教育文化会館

もく じ  
目 次

だいひょうあいさつ  
代表挨拶 .....1

さっぽろえんゆうじゅくだいひょう えんどう ち え こ  
札幌遠友塾 代表 遠藤 知恵子

らいひんあいさつ  
来賓挨拶 .....2

さっぽろしきょういくいいんかい おかもと としゆき  
札幌市教育委員会 岡本 俊幸

こうりょうちゅうがっこう きむら よしひろ  
向陵中学校 木村 嘉宏

こうえん  
講演 .....4

えんゆうじゅく れきし こんご かだい  
「遠友塾の歴史と今後の課題」

さっぽろえんゆうじゅく れきし ちゅうしん くどう けいち  
～札幌遠友塾の歴史を中心に～ 工藤 慶一

ぜんどうやかんちゅうがく しょうかい  
全道夜間中学の紹介 .....21

くしろ だいひょう かねむら のぶこ  
釧路「くるかい」代表 賀根村 伸子

はこだてえんゆうじゅく のぐち せいじ  
函館遠友塾 野口 誠治

せいかつたいけんはっぴょう  
生活体験発表 .....25

「これまでの私」 わたし いしおか あいこ さっぽろえんゆうじゅくじゅこうせい  
石岡 愛子 (札幌遠友塾 受講生)

かめざわ しずか さっぽろえんゆうじゅくじゅこうせい  
亀澤 定 (札幌遠友塾 受講生)

まつむら なおこ さっぽろえんゆうじゅくじゅこうせい  
松村 直子 (札幌遠友塾 受講生)

やまや りょうた さっぽろえんゆうじゅく  
山谷 亮太 (札幌遠友塾 スタッフ)

なかにいだ みのる くしろ がくしゅうしゃ  
中新井田 稔 (釧路「くるかい」学習者)

しょうじ はるみ はこだてえんゆうじゅくふくだいひょう  
東海林 晴美 (函館遠友塾 副代表)

西暦	月	札幌遠友塾自主夜間中学のあゆみ	場所
1987	9	遠友塾読書会開始(牧野金太郎世話人)「君たちはどう生きるか」他	北海道教育会館
1989	10	第1回設立準備会開催 15名参加	札幌市民会館
1990	4	<b>結成式・開講式 95名参加</b> (代表:後藤 鎮義, 事務局長:馬場 克明)	札幌市青少年センター
1991	4	第2回入学式 64名	札幌市民会館
1992	4	第3回入学式 8名	〃
1993	3	第1回卒業式	〃
	4	卒業記念パーティー・同窓会設立	共済ホール
	4	第4回入学式 18名	札幌市民会館
1994	4	第5回入学式 13名	札幌市民会館
1995	4	第6回入学式 35名	〃
	7	<b>「満5周年遠友のつどい」92名参加</b>	共済ホール
1996	4	第7回入学式 41名 (代表交代:工藤 慶一)	札幌市民会館
1997	4	第8回入学式 31名	札幌市民会館
1998	4	第9回入学式 14名	〃
1999	4	第10回入学式 31名	〃
	7	<b>「開講10周年記念のつどい」140名参加</b>	共済ホール
2000	4	第11回入学式 20名	札幌市民会館
2001	4	第12回入学式 25名	〃
2002	4	第13回入学式 14名 (市民会館耐震構造の問題から5年後の取り壊し決定)	〃
2003	4	第14回入学式 21名・「じっくりコース」開設	〃
	10	夜間中学の映画「こんばんは」上映会 370名参加	かでの2・7
2004	4	第15回入学式 41名	札幌市民会館
	9	<b>「15周年記念のつどい」106名参加</b>	札幌グランドホテル
2005	4	第16回入学式 31名	札幌市民会館
2006	4	第17回入学式 17名 (5月新年度市民会館代替として教育文化会館認められる)	〃
2007	3	第15回卒業式をもって札幌市民会館閉鎖	
	4	第18回入学式 26名	<b>札幌教育文化会館</b>
	5	<b>北海道に夜間中学をつくる会設立 (札幌市と道に5項目要望書提出)</b>	
	10	札幌弁護士会より第4回人権賞受賞	札幌弁護士会館
2008	4	第19回入学式 32名 / 4月旭川遠友塾開設	札幌教育文化会館
	7	札幌市立向陵中学校試行使用 (11月新年度向陵中学校での授業が認められる)	札幌市立向陵中学校
2009	4	第20回入学式 29名 / 4月函館遠友塾・釧路くるかい開設	<b>札幌市立向陵中学校</b>
	9	<b>「20周年記念のつどい」170名参加</b>	札幌教育文化会館
2010	4	第21回入学式 25名 (代表交代:井上 大樹)	札幌市立向陵中学校
2011	4	第22回入学式 12名 (代表代行:富田 忠義)	〃
2012	4	第23回入学式 20名 (代表交代:遠藤知恵子)	〃
	9	「北海道自主夜間中学フォーラム」150名参加	釧路市生涯学習センター
2013	4	第24回入学式 12名 <b>受講生Nさん川北小学校で授業を受け始める</b>	札幌市立向陵中学校
	8	「北海道自主夜間中学交流会」国語・数学の公開授業(100名参加)	エルプラザ
	11	社会貢献支援財団より社会貢献者表彰受賞	帝国ホテル東京
2014	4	第25回入学式 11名	札幌市立向陵中学校
	9	「北海道自主夜間中学交流会」in函館(120名参加)	函館ロワジュールホテル
2015	4	第26回入学式 10名	札幌市立向陵中学校
	9	<b>「北海道自主夜間中学交流会・札幌遠友塾25年の集い」</b>	札幌教育文化会館

西暦	月	札幌遠友塾自主夜間中学充実に向けたあゆみ	場所
2003	3	全国夜間中学校研究会が日本弁護士連合会に人権救済申立 (札幌遠友塾受講生3名:日弁連に作文提出～弁護士聞き取りによる)	
	10	市民会館取り壊しに伴う代替教室場所確保の要望書を札幌市教育委員会に提出 夜間中学の映画「こんばんは」上映会 370名参加	かでの2・7
2006	8	日本弁護士連合会 政府に意見書提出 「学齢期修学することのできなかった人々の教育を受ける権利の保障に関する意見書」	
2007	1	上田札幌市長に学校の教室使用と教育文化会館使用料半額減免の要望書提出	
	2	教育文化会館使用料半額減免が認められる	
	5	北海道に夜間中学をつくる会設立(札幌市と道に5項目要望書提出)	
	9	「義務教育を受ける機会が実質的に得られていない人々への修学保障についての 請願書」を北海道議会に提出	
	10	「義務教育を受ける機会が実質的に得られていない人々への修学保障についての 陳情書」を札幌市議会に提出	
2008	1	札幌市議会 文教委員会にて工藤陳述	札幌市議会
	5	「調査の結果、市中心部で専用の空き教室はなかった」との市教委回答に対して 受講生・スタッフ35名で市教委と話し合い	札幌市教育委員会会議室
2009	12	第55回全国夜間中学校全国大会(神戸)で、「夜間中学の法整備」に向けて 超党派国会議員に積極的に働きかけ行う提案がなされる。	神戸市総合教育センター
2010	1	全道6万人署名 北海道議会に提出	
2012	8	義務教育等学習機会充実法案(仮称)に向けた国会院内集会 (札幌遠友塾参加 8名:全体171名)	衆議院第二議員会館
	12	義務教育等学習機会充実に関する法案整備を求める意見書全会一致で採択	札幌市議会・北海道議会
2013	8	義務教育等学習機会充実法案(仮称)に向けた国会院内シンポジウム (札幌遠友塾参加 2名:全体127名)	衆議院第二議員会館
2014	4	夜間中学等義務教育拡充議員連盟発足(超党派国会議員57名)	衆議院第一議員会館
	8	夜間中学等の全国拡充に向けたの国会院内シンポジウム (札幌遠友塾参加 3名:全体183名) 札幌市議会に国勢調査教育項目改善に関する陳情書提出 文部科学省来年度概算要求で夜間中学関連予算を300万から4400万に増額	衆議院第一議員会館
	10	「義務教育未修了者の実態把握と教育環境整備を求める意見書」全会一致可決 札幌市議会 総務委員会にて工藤陳述	北海道議会 札幌市議会
	11	「義務教育未修了者の実態把握のため、国勢調査の「教育」項目の改善を求める 意見書」全会一致可決	札幌市議会
2015	5	「超党派フリースクール等議員連盟」と「夜間中学等義務教育拡充議員連盟」が合同で 議連総会開催。「多様な教育機会確保法(仮称)案」が座長試案として出される。 立法チーム設置。	憲政記念館
	6	今国会での義務教育未修了者のための法成立を期す国会院内の集い (札幌遠友塾参加 2名:全体180名)	衆議院第二議員会館

だいひょうあいさつ  
代表挨拶

さつぽろえんゆうじゅくだいひょう えんどう ち え こ  
札幌遠友塾 代表 遠藤 知恵子

みなさんこんにちは。今日はお忙しい中お集まりいただき有り難うございます。

きょう ぜんどうこうりゅうかいなら さつぽろえんゆうじゅく ねん つど とお くしろ はこだて じしゅやかんちゅうがく  
今日の全道交流会並びに札幌遠友塾 25年の集いには、遠く釧路や函館の自主夜間中学で  
かつどう つづ がくしゅうしゃ かたがた か そつぎょうせい みな  
活動が続いている学習者やスタッフの方々が駆けつけてくださり、それに、卒業生の皆さん  
ひ わたしども かつどう しえん さんじょかいりん かた おおぜい かたがた さんか  
んや日ごろ私共の活動を支援してくださっている賛助会員の方など多勢の方々のご参加を  
いただいております。またお忙しい中駆けつけてくださいましたご来賓の方々にも心より  
かんしゃもう あ  
感謝申し上げます。

この札幌遠友塾は、スタートしてからすでに25年になります。

わたし などまだ関わって5年足らずですが、今日までの25年の道のりは山あり谷ありで、特に  
スタートから数年は大変な困難を伴うものだったと思います。そして、まさか25年も続く  
だろうとは思っても居なかったと聞いております。

た ちあげの時の合言葉は「学びたい人が生きることの証と喜びを見出せる場、仲間ととも  
に楽しく学べる場を目指す」というものでした。「学びたい」という学習者の皆さんの熱  
い思いと、そして学んだことによる喜びが、活動の継続を支えてきたのだと思います。学び  
を支えるスタッフは、その学習している受講生の皆さんの熱い思いに励まされ、喜びを受け  
取っています。このような、受講生、スタッフのそれぞれの思いが、遠友塾が今日まで続  
いている原動力となっているのだらうと思います。

きょう ぜんはん ぜんほん さつぽろえんゆうじゅく あゆ さいしょ た あ かかわ  
今日のプログラムの前半では、この札幌遠友塾の25年の歩みを、最初の立ち上げから関  
り、現在「北海道に夜間中学をつくる会代表」をしている工藤慶一氏にふりかえってら  
います。25年の流れの中で立ち上げられてきたこの「北海道に夜間中学をつくる会」は、  
まな きかい え ひとびと ひろ まな きかい よ じょうけん まな  
学びの機会を得られなかった人々により広く学びの機会を、そしてより良い条件で学んで  
いただきたいと立ち上げられました。2008年、2009年には、旭川、釧路、函館にも夜間中学  
が立ち上げられ、このような交流会を毎年持つ事ができるまでに広がってまいりました。  
また、このところ夜間中学に関する国の動きも急展開を示しており、「多様な学習機会  
かくほうあん けんとう すず わたしたち ちゅうもく  
確保法案」の検討が進められており、私達も注目しているところです。ということで、つ  
くる会代表には、これまでの経過を話してもらおうことになっています。

後半では学習者、スタッフの方々の体験発表となっております。そこでは、「学び」を求めている人が、いかにして遠友塾の学びにたどり着いたのか、そしてその遠友塾の「学び」を通して得られた豊かな体験に基づいて受講生、スタッフの6人の方にお話しいただきます。時間的に制約のある中ではございますが、ご参集の皆様、ぜひ遠友塾の歴史をとともに振り返り、体験発表のお話に耳を傾けていただき、これからも、学びの場を得られないでいる人々の学習機会の充実に向け、これからの課題をとともに考えていただければと思います。

以上、簡単ではございますが、はじめのご挨拶とさせていただきます。

## 来賓挨拶

さっぽろしきょういくいんかい おかもと としゆき さま  
札幌市教育委員会 岡本 俊幸 様

みなさま さっぽろしきょういくいんかいしょうがいがくしゅうすいしんか しゃかいきょういく たんとく おかもと  
皆様こんにちは。札幌市教育委員会生涯学習推進課で社会教育を担当している岡本と  
もう ねが へいせい ねん さっぽろえんゆうじゅく かいせつ  
申します。よろしく願いいたします。平成2年にこちらの札幌遠友塾が開設されてから  
ほんじつ だい かい ほっかいどうじしゅやかんちゅうがくこうりゅうかいおよ さっぽろえんゆうじゅくじしゅやかんちゅうがく ねん つど  
本日、第6回の北海道自主夜間中学交流会及び札幌遠友塾自主夜間中学の25年の集い  
ということで、このように沢山の方がお集まりになり盛会に開催されることを心よりお祝  
い申し上げます。札幌遠友塾夜間中学でございますが、25年の間に370名あまりの方が  
そつぎょう うかが さまざま きょうぐう じじょう え きほんてき きょういく う  
卒業されたと伺っております。様々な境遇やご事情によりやむを得ず基本的な教育を受  
けられなかったにも関わらず、みづか つよ いし いよく も がくしゅう つづ じゅくせい  
自ら強い意志で意欲を持って学習を続けられている塾生  
みなさま そつぎょうせい みなさま かがた たい まな ぼ ていきょう  
の皆様とか卒業生の皆様、そしてこのような方々に対して学びの場を提供してきました  
かんけいしゃ みなさま ほんとう ふか けい い あらわ おも  
関係者の皆様に、本当に深く敬意を表したいと思っております。

また、ほっかいどう やかんちゅうがく かい だいひょうくどうさま かんけいしゃ みなさま  
北海道に夜間中学をつくる会の代表工藤様をはじめ関係者の皆様におかれまして  
は、ぎむきょういく う かがたち まな けんり ほしょう こと めざ ひび  
義務教育を受けられなかった方達に学ぶ権利を保障するという事を目指し、日々  
せいりよくてき かつどう さっぽろし しょうがいがくしゅう してん こうりょうちゅうがっこう  
精力的に活動されておられます。札幌市としても生涯学習という視点で向陵中学校の  
しょう しえん ところ こんご ひ つづ さっぽろえんゆう  
使用について支援させていただいている所でもありますけれど、今後も引き続き、札幌遠友  
じゅく みなさま きょうぎ すす い かんが  
塾の皆様としっかり協議を進めて行きたいと考えております。

きょう たくさん かが ねん なが れきし なか わたし  
今日は沢山の方がいらっしゃっているのですけれど、25年の長い歴史の中を私がこれを

1日<sup>いち</sup>で理解<sup>りかい</sup>することは難<sup>むずか</sup>しいかとは思<sup>おも</sup>いますが、工藤<sup>くどう</sup>代表<sup>だいひょう</sup>の講演<sup>こうえん</sup>や皆様<sup>みなさま</sup>の生活<sup>せいかつ</sup>体験<sup>たいけん</sup>発表<sup>はつぴょう</sup>等<sup>など</sup>、しっかり聞<sup>き</sup>いて今後<sup>こんご</sup>の取組<sup>とくぐみ</sup>に活<sup>い</sup>かしていきたいと思<sup>おも</sup>います。最後<sup>さいご</sup>になりますが、本日<sup>ほんじつ</sup>の交流<sup>こうりゅう</sup>会<sup>かい</sup>が皆様<sup>みなさま</sup>の今後<sup>こんご</sup>の学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>の糧<sup>かて</sup>とな<sup>な</sup>って、また、遠友<sup>えんゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>の皆様<sup>みなさま</sup>の今後<sup>こんご</sup>のご発<sup>はつ</sup>展<sup>てん</sup>をご祈<sup>きねん</sup>念<sup>ねん</sup>いたしまして市<sup>し</sup>からのご挨拶<sup>あいさつ</sup>といたします。本日<sup>ほんじつ</sup>はまことにおめでとうございませう。

## 2、向陵<sup>こうりょう</sup>中学校<sup>ちゅうがっこう</sup> 木村<sup>きむら</sup> 嘉宏<sup>よしひろ</sup> 様<sup>さま</sup>

皆様<sup>みなさま</sup>こんにちは。私<sup>わたし</sup>は向陵<sup>こうりょう</sup>中学校<sup>ちゅうがっこう</sup>教頭<sup>きょうとう</sup>の木村<sup>きむら</sup>と申<sup>もう</sup>します。本日<sup>ほんじつ</sup>学校<sup>がっこう</sup>長<sup>ちやう</sup>は札幌<sup>さっぽろ</sup>市<sup>し</sup>中学校<sup>ちゅうがっこう</sup>体育<sup>たいいく</sup>連盟<sup>れんめい</sup>の会<sup>かい</sup>長<sup>ちやう</sup>としての業<sup>ぎょう</sup>務<sup>む</sup>がありまして、くれぐれも皆様<sup>みなさま</sup>によろしくお伝<sup>つた</sup>えくださいと申<sup>もう</sup>しつかつております。

さて、毎<sup>まい</sup>週<sup>しゅう</sup>水<sup>すい</sup>曜<sup>よう</sup>日<sup>び</sup>になりますけれども遠友<sup>えんゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>の活<sup>かつ</sup>動<sup>どう</sup>で本校<sup>ほんこう</sup>を学<sup>まな</sup>び舎<sup>や</sup>にがんばっている皆様<sup>みなさま</sup>と共<sup>とも</sup>に在<sup>あ</sup>りたいと思<sup>おも</sup>いまして、授<sup>じゅ</sup>業<sup>ぎょう</sup>の間<sup>あいだ</sup>は学<sup>が</sup>校<sup>がっこう</sup>に居<sup>い</sup>て共<sup>とも</sup>に過<sup>す</sup>ごさせていたでいます。そして時<sup>とき</sup>々<sup>どき</sup>は授<sup>じゅ</sup>業<sup>ぎょう</sup>を拝<sup>はい</sup>見<sup>けん</sup>させていたでいます。そんな中<sup>なか</sup>、7月<sup>がつ</sup>に「こんばんは遠友<sup>えんゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>です」という広<sup>こう</sup>報<sup>ほう</sup>紙<sup>し</sup>を向陵<sup>こうりょう</sup>中学校<sup>ちゅうがっこう</sup>の生<sup>せい</sup>徒<sup>と</sup>、家<sup>か</sup>庭<sup>てい</sup>の皆<sup>みな</sup>さん、地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>の皆<sup>みな</sup>さんへと発<sup>はつ</sup>行<sup>こう</sup>していただきました。(プ<sup>み</sup>リ<sup>ん</sup>ト<sup>を</sup>見<sup>み</sup>せ)これなんですけどね。今<sup>こん</sup>年<sup>ねん</sup>度<sup>ど</sup>の入<sup>にゅう</sup>学<sup>がく</sup>式<sup>しき</sup>や授<sup>じゅ</sup>業<sup>ぎょう</sup>の様<sup>よう</sup>子<sup>す</sup>。それから、つくる会<sup>かい</sup>の総<sup>そう</sup>会<sup>かい</sup>の件<sup>けん</sup>についての記事<sup>きじ</sup>が書<sup>か</sup>かれています。それでこれを生<sup>せい</sup>徒<sup>と</sup>に配<sup>はい</sup>布<sup>ふ</sup>する際<sup>さい</sup>に、私<sup>わたし</sup>は職<sup>しょく</sup>員<sup>いん</sup>に次<sup>つぎ</sup>のような話<sup>はなし</sup>をしました。昨日<sup>きのう</sup>実<sup>じつ</sup>は遠友<sup>えんゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>があつて授<sup>じゅ</sup>業<sup>ぎょう</sup>の様<sup>よう</sup>子<sup>す</sup>を見<sup>み</sup>ました。そしたら教<sup>きょう</sup>室<sup>しつ</sup>ではご高<sup>こう</sup>齢<sup>れい</sup>ではあるんですけどね、A<sup>え</sup>B<sup>び</sup>C<sup>し</sup>ソ<sup>い</sup>ン<sup>っ</sup>グ<sup>を</sup>一<sup>いっ</sup>生<sup>しやう</sup>懸<sup>けん</sup>命<sup>めい</sup>歌<sup>うた</sup>つて、目<sup>め</sup>を輝<sup>かが</sup>かせて歌<sup>うた</sup>っている。そうい<sup>う</sup>方<sup>かた</sup>々<sup>がた</sup>を見<sup>み</sup>て、私<sup>わたし</sup>も中<sup>ちゅう</sup>学<sup>がく</sup>校<sup>がっこう</sup>の英<sup>えい</sup>語<sup>ご</sup>教<sup>きょう</sup>師<sup>し</sup>ですから教<sup>おし</sup>えていたとき<sup>とき</sup>の生<sup>せい</sup>徒<sup>と</sup>の姿<sup>すがた</sup>とダブ<sup>ひ</sup>つて非<sup>ひ</sup>常<sup>じょう</sup>に感<sup>かん</sup>動<sup>どう</sup>した、とい<sup>う</sup>話<sup>はなし</sup>をしました。生<sup>せい</sup>徒<sup>と</sup>にこの遠友<sup>えんゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>広<sup>こう</sup>報<sup>ほう</sup>紙<sup>し</sup>を紹<sup>しょう</sup>介<sup>かい</sup>する時<sup>とき</sup>に「向陵<sup>こうりょう</sup>中学校<sup>ちゅうがっこう</sup>でそ<sup>う</sup>い<sup>う</sup>頑<sup>がん</sup>張<sup>ばう</sup>つてい<sup>る</sup>皆<sup>みな</sup>さんとお<sup>な</sup>ま<sup>な</sup>やあ<sup>ゆ</sup>んで居<sup>い</sup>るとい<sup>う</sup>こと<sup>に</sup>是<sup>ぜ</sup>非<sup>ひ</sup>誇<sup>ほ</sup>りを持<sup>も</sup>つてもら<sup>ら</sup>いたい」と話<sup>はなし</sup>をしまし<sup>て</sup>もら<sup>ら</sup>いたいと朝<sup>あさ</sup>の会<sup>かい</sup>で話<sup>はなし</sup>をしました。そんな事<sup>こと</sup>で私<sup>わたし</sup>も今<sup>こと</sup>年<sup>ねん</sup>就<sup>しゅう</sup>任<sup>にん</sup>しまし<sup>て</sup>半<sup>はん</sup>年<sup>ねん</sup>経<sup>けい</sup>ち<sup>ま</sup>して、い<sup>つ</sup>も遠友<sup>えんゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>さん<sup>の</sup>皆<sup>みな</sup>さん<sup>の</sup>活<sup>かつ</sup>動<sup>どう</sup>を見<sup>み</sup>なが<sup>ら</sup>、応<sup>おう</sup>援<sup>えん</sup>したい<sup>な</sup>とい<sup>う</sup>気<sup>き</sup>持<sup>も</sup>ちでいます。

本日<sup>ほんじつ</sup>は25周年<sup>しゅうねん</sup>の集<sup>つど</sup>い<sup>へ</sup>を經<sup>えん</sup>て遠友<sup>えんゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>さん<sup>が</sup>益<sup>ます</sup>々<sup>ます</sup>発<sup>はつ</sup>展<sup>てん</sup>して<sup>い</sup>た<sup>だ</sup>き<sup>ま</sup>して、皆<sup>みな</sup>さん<sup>が</sup>ご活<sup>かつ</sup>躍<sup>やく</sup>され<sup>る</sup>こと<sup>を</sup>祈<sup>きねん</sup>念<sup>ねん</sup>いた<sup>し</sup>ま<sup>し</sup>て私<sup>わたし</sup>の挨拶<sup>あいさつ</sup>に代<sup>か</sup>え<sup>さ</sup>せ<sup>て</sup>い<sup>た</sup>だ<sup>き</sup>ま<sup>し</sup>て、本日<sup>ほんじつ</sup>は誠<sup>まこと</sup>におめでとうございませう。

こう えん えんゆうじゅく れきし こんご かだい  
講 演 「遠友塾の歴史と今後の課題」

さつぼろえんゆうじゅく れきし ちゅうしん こんごう けいいち  
～札幌遠友塾の歴史を中心に～ 工藤 慶一

じょうない さつぼろえんゆうじゅく しゅうねんきねん もじ  
(場内スクリーンに札幌遠友塾25周年記念の文字)

プロローグ 札幌遠友塾の誕生 案内は3年スタッフ阿部伸子さん

かんり じゅけんせんそう むえん ほんとう きょういく めぎ さつぼろ しみん らいげつ どうないはつ  
「管理や受験戦争とは無縁の本当の教育を目指して、札幌の市民たちが来月、道内初の  
じしゅやかんちゅうがく さつぼろえんゆうじゅく ひら せんそう ひんこん がっこう まんぞく かよ ひと  
自主夜間中学「札幌遠友塾」を開く。戦争や貧困で学校にも満足に通えなかった人たち、  
さいきん ふ どうこうきよひ こども はばひろ とも まな こうりゅう ば けいかく どうきょう  
最近増えている登校拒否の子供など幅広い世代が共に学び、交流する場にする計画。東京  
おおおさか こうりつ やかんちゅうがく みんかん じしゅうんえい ぜんこくてき かず すく おお きたい  
や大阪には公立の夜間中学があるが、民間の自主運営は全国的にも数が少なく、大きな期待  
が寄せられている」

いま ねんまえ さつぼろえんゆうじゅく ほっそくじ ほう しんぶん きじ ねん  
これは今から25年前、「札幌遠友塾」発足時に報じられた新聞記事です。1990年といえ  
ば「バブル崩壊の1年前」、まだ「拓銀」もありました。大量生産大量消費の時代でした。  
ほうかい ねんまえ たくぎん たいりょうせいさんたいりょうしょうひ じだい  
そんな中、「札幌遠友塾」が船出したのです。  
なか さつぼろえんゆうじゅく ふなで

ふなで ねんまえ きょうし かいしゃいん しゅふ たさう かたち だくしょかい  
またこの船出には、その3年前から教師や会社員、主婦など多数の方達による「読書会」  
を立ち上げ、「多くの問題を抱えている教育を何とかしたい」と準備を進めてきたのでし  
た。そして、1990年4月、100名を超える希望者が集まり「札幌遠友塾・自主夜間中学」が  
しゅつぱつ  
出発したのです。

せつりつとうしよ えんゆうじゅく かつどう こんごう けいいち しょうかい  
では、設立当初からずっと遠友塾の活動をされてきた「工藤慶一さん」を紹介します。

えんゆうじゅく なまえ ゆらい  
1. 遠友塾の名前の由来とスローガン

みな はくしゅ  
皆さん、こんにちは (拍手)

わたし ねん しょうわ ねんあさひかわ う せんじつ さい たんじょうび むか えんゆう  
私は1948年、昭和23年旭川で生まれました。つい先日67歳の誕生日を迎えました。遠友  
じゅく じゅぎょう ほじ とき さい ねん ねん ねんかん さつぼろえんゆうじゅく  
塾の授業が始まった時は40歳でした。1996年から2010年までの14年間、札幌遠友塾の  
だいひょう つと げんざい ねん ほっかいどう やかんちゅうがく かい  
代表を務めていまして、現在は2007年にできました「北海道に夜間中学をつくる会」の  
だいひょう  
代表をしております。



この記事は、1990年4月遠友塾が開講する直前に出た3月25日の北海道新聞の朝刊です。この日はちょうど日曜日でした。この記事の右側にイラストが載っていました。この記事のおかげで、正直いって朝の5時、私達がまだ寝ていたんですが、もう電話が鳴りやまずということになりました。

札幌遠友塾という名前は、明治27年から昭和19年まで50年間続いた「遠友夜学校」という学校の名前から頂いております。「遠友」という意味は論語に出てくる「朋あり遠方より来るまた楽しからずや」という言葉からきていますが、遠い人とも、あるいは知らない人とも皆なかよく

やっつけていけるという意味を持っています。そしてスローガンである「学ぶことが生きることの証と喜びになる」と言う言葉は、これは遠友塾の読書会を主催した、お亡くなりになった牧野金太郎先生の書いた文章の中に、遠友夜学校に通っていた人たちにとって「学ぶことが生きることの証と喜びになっているように思える」という文章がありましたので、遠友塾設立の時からこの言葉をスローガンとして掲げています。

## 2. 忘れえぬスタッフ

それでは次に、たった1枚残っている開講式の時の写真です。これは1990年の4月29日、現在の道警本部のある建物、あそこに昔「札幌市青少年センター」という建物がありました。そこで開講式を行ったわけです。この時の遠友塾代表が、新川高校

の教員を勤めていた後藤鎮義さん、事務局長が札幌市の小学校の事務職員をしていた馬場克明さん、それと私と3人で事務局員という名前をつけて活動してきました。当日、私は左端にいますが司会を担当しました。もちろん若いですが、25年前ですから(笑)。残っている写真の中で「開講式」の写真は、これたった1枚しかないのです。



・江良富士男さん～開講式会場の椅子をトラックで運ぶ

左から3番目の方、この方は江良富士男さんという方です。なぜ私がこの方から話を始めようと思ったかという、この方、実は1996年7月に49歳でガンのために亡くなりました。亡くなるまで遠友塾のことをずっと思い考えていました。この開講式の時、実は突発的に大変な問題が出てきたんです。椅子の数が足りなくなりました。あまりの人数にですね。それでとっさに江良さんが自分の会社に行って、会社のトラックに椅子を数十脚積んで会場に運び入れたんです。このような事は皆さんあまりお分りにならないかもしれませんが、実はそのようなことがあったのです。



・今紺映一さん～数学のプリントが遠友塾を救う

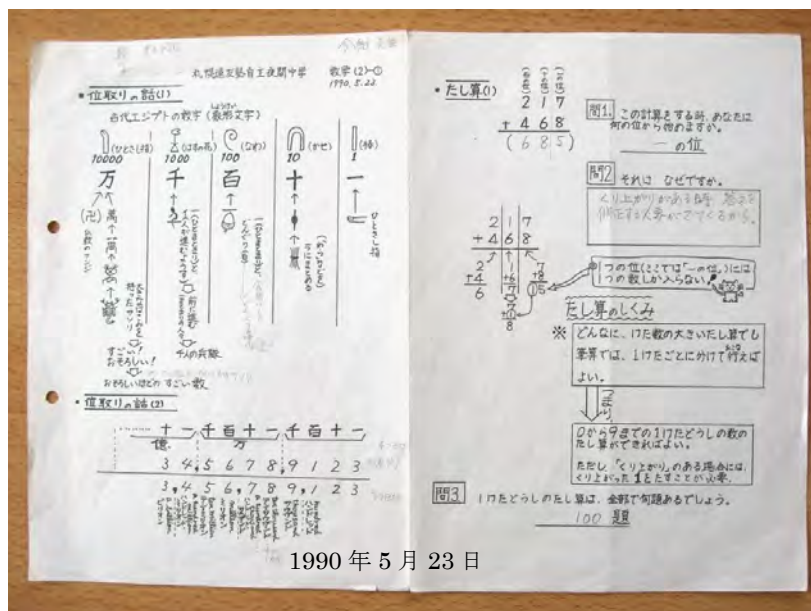
次に、忘れえぬスタッフとして次の方を紹介いたします。この写真は当時会場にしていた札幌市民会館の2階の1号室です。この真中のメガネをかけている方が今紺映一先生、その左側にちょっとワルガキが立っています。実は私の息子であります。私の息子の小学校5、6年の時の担任が今紺先生です。参観日などを通じて彼の授業を見た時に、もしかしたらこの人だったら、という思いがありまして、勧めてみたところスタッフとして参加してくれたのです。



実はこの方1990年開講から4年後の4月にガンで亡くなりました。特に1期生と2期生の方には思い出深い先生です。それにはいくつかの理由があるんですが、今紺先生は数学を担当しました。その時、今紺先生が使ったプリントをお見せします。

これは数の読み方、それから  
たし算の勉強、5月23日でした  
かその日の1期生の授業として  
行われたものです。1期生の方、  
今日も来ておられますが、覚えて  
おられないかもしれないけど、  
このようなプリントを使っていた  
わけです。

実はこの数学のプリントが  
遠友塾を救うことになったん

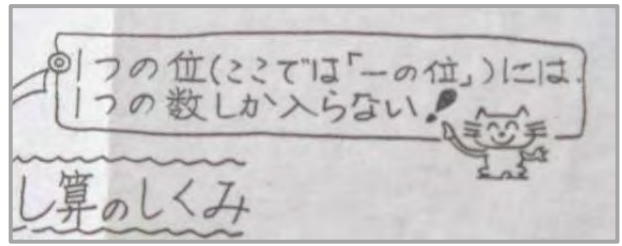


です。それはなぜかという、当時、札幌市民会館の場所を確保するために、何月何日どこ  
どこの教室を確保するという抽選会に出ていたんです。それで1990年夏の抽選会に出た  
ところ、檀上から市民会館の係長さんが「遠友塾さん、ちょっと来てください」と言わ  
れて行ったら、このような事を言いました。「遠友塾さん、新聞記事を見ると月に受講料  
1500円もらっているでしょ。ですから会場費3倍になります」確かに規定を見ると3倍に  
なる。それは営利目的で使ってはいけないという意味だったんです。ところがもしもその  
当時、遠友塾の財政からいって、色々計算してみると、2年間で遠友塾の金庫が空になる  
というのが判りました。それで担当の係長さんをお願いに3度伺いました。最初は規則だ  
からの一点ばりです。「あー規則だ」「いや何とか」「規則だ」「いや何とか」と話してい  
る時に、ちょっと雰囲気を変えようと思って、今紺先生の使っていた数学のプリントをお見  
せしたんです。そしたらですね、私ハッキリ覚えているのは、その係長さんの顔つきが変  
わったんです。あれは不思議な瞬間でした。そうして「ちょっと待ってくれ。検討する」  
それでその後どうなったかという、  
「料金は今まで通りでいいよ」と言ってくれました  
し、さらに、その後電話が来まして「遠友塾さん、抽選会に出なくていいから。札幌市の  
行事を入れた後に抽選会やるけど、その間に教室うめてあげるから来なさい」という事が  
あったんですね。もしその時に今紺さんのプリントがなければ、規則でおそらく押し切られ



たろうと思<sup>おも</sup>います。ですからこの今<sup>いま</sup>紺<sup>こん</sup>さんの数学<sup>すうがく</sup>のプリントが、実<sup>じつ</sup>は遠<sup>えん</sup>友<sup>ゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>を救<sup>すく</sup>ったということになります。

それとちょっと<sup>かくだい</sup>拡大<sup>かくだい</sup>してください。ここに「ネコちゃん」がいますね。今<sup>いま</sup>紺<sup>こん</sup>先生<sup>せんせい</sup>は学<sup>が</sup>級<sup>きゅう</sup>通信<sup>つうしん</sup>等<sup>など</sup>でも、このネコちゃんを書<sup>か</sup>かないと、うま<sup>い</sup>く書<sup>か</sup>けないと言<sup>い</sup>っていました。それで



プリントにはネコちゃん<sup>い</sup>を入れる。こ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>う<sup>い</sup>プ<sup>い</sup>リ<sup>い</sup>ン<sup>い</sup>ト<sup>い</sup>が<sup>い</sup>続<sup>い</sup>いて<sup>い</sup>いた<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>です<sup>い</sup>ね<sup>い</sup>。それで彼<sup>かれ</sup>が1994年<sup>ねん</sup>に亡<sup>な</sup>くな<sup>な</sup>った<sup>な</sup>後<sup>あと</sup>、引<sup>ひ</sup>き<sup>ひ</sup>継<sup>ひ</sup>いだ<sup>ひ</sup>数<sup>すう</sup>学<sup>がく</sup>科<sup>か</sup>の<sup>と</sup>ス<sup>と</sup>タ<sup>と</sup>フ<sup>と</sup>フ<sup>と</sup>の<sup>と</sup>取<sup>と</sup>り<sup>と</sup>決<sup>と</sup>め<sup>と</sup>で<sup>と</sup>、今<sup>いま</sup>紺<sup>こん</sup>先生<sup>せんせい</sup>の<sup>い</sup>し<sup>し</sup>の<sup>し</sup>志<sup>し</sup>を<sup>つ</sup>継<sup>つ</sup>ご<sup>ご</sup>う<sup>ご</sup>、その<sup>えん</sup>た<sup>た</sup>めに<sup>えん</sup>遠<sup>えん</sup>友<sup>ゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>の<sup>すう</sup>数<sup>がく</sup>学<sup>がく</sup>の<sup>か</sup>プ<sup>か</sup>リ<sup>か</sup>ン<sup>か</sup>ト<sup>か</sup>には<sup>か</sup>、必<sup>かな</sup>ず<sup>かな</sup>「ネコちゃん」<sup>い</sup>を<sup>い</sup>入<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>と<sup>い</sup>決<sup>い</sup>め<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>し<sup>い</sup>た<sup>い</sup>。皆<sup>みな</sup>さん<sup>すう</sup>お<sup>すう</sup>わ<sup>すう</sup>か<sup>すう</sup>り<sup>すう</sup>か<sup>すう</sup>な<sup>すう</sup>あ<sup>すう</sup>、ど<sup>かな</sup>の<sup>かな</sup>数<sup>か</sup>学<sup>がく</sup>の<sup>か</sup>プ<sup>か</sup>リ<sup>か</sup>ン<sup>か</sup>ト<sup>か</sup>に<sup>か</sup>も<sup>か</sup>必<sup>かな</sup>ず<sup>かな</sup>ネコちゃん<sup>い</sup>入<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>す<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>。それ<sup>は</sup>は<sup>は</sup>25年<sup>ねん</sup>経<sup>い</sup>った<sup>い</sup>今<sup>いま</sup>でも<sup>い</sup>そ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>な<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>です<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>。

それから今年<sup>ことし</sup>3月<sup>がつ</sup>にある<sup>かた</sup>方<sup>でんわ</sup>から電話<sup>さんじょかいりん</sup>が<sup>さんじょかいりん</sup>き<sup>さんじょかいりん</sup>ま<sup>さんじょかいりん</sup>し<sup>さんじょかいりん</sup>た<sup>さんじょかいりん</sup>。 「賛<sup>さん</sup>助<sup>じょ</sup>会<sup>かい</sup>員<sup>りん</sup>に<sup>さんじょかいりん</sup>な<sup>さんじょかいりん</sup>り<sup>さんじょかいりん</sup>た<sup>さんじょかいりん</sup>い<sup>さんじょかいりん</sup>ん<sup>さんじょかいりん</sup>で<sup>さんじょかいりん</sup>す<sup>さんじょかいりん</sup>」 め<sup>さんじょかいりん</sup>っ<sup>さんじょかいりん</sup>た<sup>さんじょかいりん</sup>に<sup>さんじょかいりん</sup>な<sup>さんじょかいりん</sup>い<sup>さんじょかいりん</sup>電<sup>でんわ</sup>話<sup>でんわ</sup>で<sup>でんわ</sup>す<sup>でんわ</sup>。 受<sup>じゅ</sup>講<sup>こう</sup>生<sup>せい</sup>に<sup>さんじょかいりん</sup>な<sup>さんじょかいりん</sup>り<sup>さんじょかいりん</sup>た<sup>さんじょかいりん</sup>い<sup>さんじょかいりん</sup>、 あ<sup>さんじょかいりん</sup>る<sup>さんじょかいりん</sup>い<sup>さんじょかいりん</sup>は<sup>さんじょかいりん</sup>ス<sup>さんじょかいりん</sup>タ<sup>さんじょかいりん</sup>フ<sup>さんじょかいりん</sup>に<sup>さんじょかいりん</sup>な<sup>さんじょかいりん</sup>り<sup>さんじょかいりん</sup>た<sup>さんじょかいりん</sup>い<sup>さんじょかいりん</sup>と<sup>さんじょかいりん</sup>い<sup>さんじょかいりん</sup>う<sup>さんじょかいりん</sup>電<sup>でんわ</sup>話<sup>でんわ</sup>は<sup>さんじょかいりん</sup>た<sup>さんじょかいりん</sup>く<sup>さんじょかいりん</sup>さ<sup>さんじょかいりん</sup>ん<sup>さんじょかいりん</sup>き<sup>さんじょかいりん</sup>ま<sup>さんじょかいりん</sup>す<sup>さんじょかいりん</sup>が<sup>さんじょかいりん</sup>、 賛<sup>さん</sup>助<sup>じょ</sup>会<sup>かい</sup>員<sup>りん</sup>に<sup>さんじょかいりん</sup>な<sup>さんじょかいりん</sup>り<sup>さんじょかいりん</sup>た<sup>さんじょかいりん</sup>い<sup>さんじょかいりん</sup>と<sup>さんじょかいりん</sup>い<sup>さんじょかいりん</sup>う<sup>さんじょかいりん</sup>方<sup>かた</sup>は<sup>さんじょかいりん</sup>め<sup>さんじょかいりん</sup>っ<sup>さんじょかいりん</sup>た<sup>さんじょかいりん</sup>に<sup>さんじょかいりん</sup>あ<sup>さんじょかいりん</sup>り<sup>さんじょかいりん</sup>ま<sup>さんじょかいりん</sup>せ<sup>さんじょかいりん</sup>ん<sup>さんじょかいりん</sup>。 その<sup>り</sup>理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>を<sup>き</sup>聞<sup>き</sup>く<sup>き</sup>と<sup>き</sup>「実<sup>じつ</sup>は<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>紺<sup>こん</sup>先生<sup>せんせい</sup>に<sup>い</sup>、 月<sup>つき</sup>寒<sup>さむ</sup>小<sup>しょう</sup>学<sup>がっこう</sup>校<sup>がっこう</sup>で<sup>い</sup>お<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>わ<sup>い</sup>に<sup>い</sup>な<sup>い</sup>った<sup>い</sup>。 私<sup>わたし</sup>が<sup>く</sup>苦<sup>くる</sup>しい<sup>とき</sup>時<sup>とき</sup>に<sup>せんせい</sup>先<sup>たす</sup>生<sup>たす</sup>が<sup>い</sup>助<sup>い</sup>け<sup>い</sup>て<sup>い</sup>く<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>。 その<sup>い</sup>お<sup>い</sup>か<sup>い</sup>げ<sup>い</sup>で<sup>い</sup>今<sup>いま</sup>の<sup>い</sup>私<sup>わたし</sup>が<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>」と<sup>い</sup>い<sup>い</sup>う<sup>い</sup>大<sup>お</sup>人<sup>と</sup>に<sup>かた</sup>な<sup>でんわ</sup>った<sup>い</sup>方<sup>い</sup>か<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>電<sup>い</sup>話<sup>い</sup>が<sup>い</sup>き<sup>い</sup>た<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>で<sup>い</sup>す<sup>い</sup>。 「今<sup>いま</sup>紺<sup>こん</sup>先生<sup>せんせい</sup>ど<sup>い</sup>う<sup>い</sup>し<sup>い</sup>て<sup>い</sup>い<sup>い</sup>る<sup>い</sup>か<sup>い</sup>な<sup>い</sup>？」と<sup>い</sup>い<sup>い</sup>う<sup>い</sup>思<sup>おも</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>イ<sup>い</sup>ン<sup>い</sup>タ<sup>い</sup>ー<sup>い</sup>ネ<sup>い</sup>ッ<sup>い</sup>ト<sup>い</sup>で<sup>い</sup>調<sup>しら</sup>べ<sup>さ</sup>た<sup>さ</sup>ら<sup>さ</sup>、 札<sup>さつ</sup>幌<sup>ぼろ</sup>遠<sup>えん</sup>友<sup>ゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>の<sup>で</sup>ホ<sup>い</sup>ー<sup>い</sup>ム<sup>い</sup>ペ<sup>い</sup>ー<sup>い</sup>ジ<sup>い</sup>が<sup>い</sup>出<sup>い</sup>て<sup>い</sup>き<sup>い</sup>た<sup>い</sup>。 それ<sup>で</sup>今<sup>いま</sup>紺<sup>こん</sup>先生<sup>せんせい</sup>が<sup>い</sup>亡<sup>な</sup>くな<sup>な</sup>った<sup>な</sup>と<sup>い</sup>い<sup>い</sup>う<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>が<sup>い</sup>分<sup>わ</sup>か<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>。 それ<sup>で</sup>先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>の<sup>おん</sup>恩<sup>がえ</sup>返<sup>わ</sup>し<sup>わたし</sup>に<sup>さんじょかいりん</sup>私<sup>わたし</sup>は<sup>さんじょかいりん</sup>賛<sup>さん</sup>助<sup>じょ</sup>会<sup>かい</sup>員<sup>りん</sup>に<sup>さんじょかいりん</sup>な<sup>さんじょかいりん</sup>り<sup>さんじょかいりん</sup>た<sup>さんじょかいりん</sup>い<sup>さんじょかいりん</sup>で<sup>さんじょかいりん</sup>す<sup>さんじょかいりん</sup>」と<sup>い</sup>い<sup>い</sup>う<sup>い</sup>お<sup>い</sup>電<sup>い</sup>話<sup>い</sup>で<sup>い</sup>した<sup>い</sup>。 ですから今<sup>いま</sup>紺<sup>こん</sup>先生<sup>せんせい</sup>が<sup>い</sup>亡<sup>な</sup>くな<sup>な</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>21年<sup>ねん</sup>た<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>す<sup>い</sup>が<sup>い</sup>、 彼<sup>かれ</sup>は<sup>い</sup>亡<sup>な</sup>くな<sup>な</sup>った<sup>な</sup>後<sup>あと</sup>も<sup>い</sup>、 な<sup>い</sup>お<sup>い</sup>も<sup>い</sup>遠<sup>えん</sup>友<sup>ゆう</sup>塾<sup>じゅく</sup>を<sup>い</sup>お<sup>い</sup>う<sup>い</sup>え<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>づ<sup>い</sup>く<sup>い</sup>て<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>す<sup>い</sup>。 こ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>い<sup>い</sup>う<sup>い</sup>先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>が<sup>い</sup>お<sup>い</sup>り<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>した<sup>い</sup>。

・富<sup>と</sup>田<sup>みた</sup>忠<sup>ただ</sup>義<sup>よし</sup>さん<sup>ふく</sup>～受<sup>じゅ</sup>講<sup>こう</sup>生<sup>せい</sup>も<sup>ほけん</sup>含<sup>じつげん</sup>めた<sup>じつげん</sup>ボ<sup>ほけん</sup>ラ<sup>じつげん</sup>ン<sup>じつげん</sup>テ<sup>じつげん</sup>ィ<sup>じつげん</sup>ア<sup>じつげん</sup>保<sup>ほけん</sup>険<sup>じつげん</sup>の<sup>じつげん</sup>実<sup>じつげん</sup>現<sup>じつげん</sup>

それ<sup>で</sup>は<sup>い</sup>次<sup>つぎ</sup>の<sup>わす</sup>忘<sup>わす</sup>れ<sup>わす</sup>え<sup>わす</sup>ぬ<sup>わす</sup>ス<sup>わす</sup>タ<sup>わす</sup>フ<sup>わす</sup>を<sup>わす</sup>……

ついで<sup>い</sup>に<sup>い</sup>言<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>す<sup>い</sup>と<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>は<sup>い</sup>2010年<sup>ねん</sup>の<sup>ねん</sup>ク<sup>ねん</sup>ラ<sup>ねん</sup>ス<sup>ねん</sup>

発<sup>はつ</sup>表<sup>びょう</sup>忘<sup>ぼう</sup>年<sup>ねん</sup>会<sup>かい</sup>の<sup>ぼめん</sup>場<sup>まん</sup>面<sup>なか</sup>で<sup>だんせい</sup>す<sup>きせい</sup>。 真<sup>ま</sup>中<sup>なか</sup>の<sup>だんせい</sup>男<sup>だんせい</sup>性<sup>せい</sup>、 21期<sup>じ</sup>生<sup>せい</sup>の<sup>じゅこうせい</sup>奥<sup>おく</sup>谷<sup>たに</sup>さん<sup>かた</sup>と<sup>い</sup>い<sup>い</sup>う<sup>い</sup>方<sup>かた</sup>で<sup>い</sup>す<sup>い</sup>が<sup>い</sup>、 こ<sup>ひ</sup>の<sup>だんせい</sup>日<sup>日</sup>、 男<sup>だんせい</sup>性<sup>せい</sup>の<sup>じゅこうせい</sup>受<sup>じゅ</sup>講<sup>こう</sup>生<sup>せい</sup>は<sup>い</sup>皆<sup>みな</sup>の<sup>い</sup>意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>で<sup>い</sup>女<sup>じょ</sup>装<sup>そう</sup>さ<sup>わらい</sup>せ<sup>わらい</sup>ら<sup>わらい</sup>れ<sup>わらい</sup>て<sup>わらい</sup>い<sup>わらい</sup>る<sup>わらい</sup>。 (笑)



一杯ひっかけて会場に来たんですね。でその左側にいる方、この方が富田忠義さんという方です。富田さんは長年社会科のスタッフ、並びに21期生のクラスチーフとして活躍されましたが、2013年の12月にお亡くなりになりました。享年70歳です。この富田さんは実は2012年4月から7月まで代表代行をしてくださいました。非常に尽力をしてくださいましたが、この方にやって頂いた大きな仕事が実はあります。

今私たちは遠友塾のスタッフ、受講生含めてすべて1人年間300円のボランティア保険に加入しております。しかしボランティア保険に加入することは色々な意見があつて、全国的には受講生の分は認められないケースが大半です。しかし今札幌遠友塾は、スタッフも受講生も、1人年間300円の保険で安全を確保しています。それがなぜできたか？彼が社会福祉協議会はもちろんのこと、保険会社代理店、並びに保険会社と交渉した結果として、全国的にも札幌遠友塾だけが、今そのような恩恵を受けています。全国の自主夜間中学、並びに識字教室、フリースクール含めてこのようなことを今まで色々聞きましたけど、どうもやっていないようです。なぜボランティア保険が受講生がだめなのか、受講生はスタッフじゃないからという理屈なんです、片方でスポーツ保険ならいいよ、というんです。年間1人900円です。スポーツやらないのにスポーツ保険ならいい、何か訳の分からない理由でだめだ。そこをですね、私達は引かずに交渉を重ねて、そのようなことにいたっています。今この動きを何とか全国の識字教室、自主夜間中学、フリースクールにも適用できるように厚生労働省と交渉していきたいと考えております。このようなことがありました。

### 3. 忘れえぬ受講生～遠路通われた方達

では次に忘れえぬ受講生。たくさんの方がおりますが紹介します。

#### ・釧路から通われたご夫婦

この方は釧路から通われたご夫婦です。1999年に7期生で卒業されました。私が驚いたのは、入学式の時にリュックサックをしょって来まして、始まる直前にヒョットといなくなつたと思ったら、あの結婚式の時に使う礼服で入って来たんです。

そうして長距離の夜行のバスで家に着いたら朝の5時になりますと言っていました。このことを全国夜間中学校研究大会で発表した時、全国の夜間中学生、並びにスタッフはビックリしていました。

旦那さんはお亡くなりになりましたが、右側にいる矢本光子さんの卒業文集がありますので阿部さんに朗読してもらいます。

釧路↓札幌 夜間中学へ夫婦



毎水曜日の夜、約60年ぶりの授業に聴き入る。自宅のある釧路市から、「学校」が開かれる札幌市民会館まで特急で往復10時間近く。だが、道程の長さは苦でない。夫婦で机を並べ、「同級生」に会えるのが楽しんだ。

矢本信夫さん(68)と光子さん=写真。戦中戦後に就学がままならなかったかつての児童生徒が集う「札幌遠友塾自主夜間中学」。夫

妻は、3年課程の1年目。年明け最初の授業があった22日は、数学で小数を学んだ。グラフづくりは「いやあ、難しかった」と苦笑いの信夫さんだが、学べること自体がうれしい。

2人とも小学校に1年行っただけで、農家の子守などの奉公に出た。「貧しくてね。学校どころじゃなかった」

太平洋戦争の嵐を生き、2人の子供も独立して、学びの舎に。「先生もほかの生徒も温かくて。今が青春。生まれて初めてですよ、こんなにいい人たちに囲まれて」と光子さん。

毎日、そろって自宅近くを1時間ほど散歩する。びったり寄り添って暮らした。和がいていいですね、と声を掛けたら、「いつもけんかしてばかりよ」と、顔をしかめた光子さん。戦中派の照れ隠しらしい。

1997年1月30日 朝日新聞

第7回 卒業文集 福寿草より 「私の思い出」 矢本 光子



平成8年4月24日、札幌市民会館、遠友塾夜間中学の入学式を迎えました。私は、初めてのことでしたので、緊張と不安でいっぱいでした。

家が貧しかったので、小学校も1年生しか行っていませんでした。字もろくろく書けませんので、いつか、勉強したいと思っていましたところ、娘が新聞をもってきました。「遠友塾夜間中学で生徒を募集しているから、申し込もう」「今すぐ申し込

むからね。入学できるといいね」。娘たちや孫たちがみんなで言ってくれました。

娘たちから、毎日「まだ返事こないかい」という電話がきました。私より娘の方が楽しみに待っていましたところ、遠友塾夜間中学からの手紙がきました。私はさっそく娘に電話をしました。「遠友塾夜間中学からの手紙がきたよ」。娘から「いますぐ行くからね」。

私が待っていると、娘がきて手紙をあけてみて「じいちゃん、ばあちゃん、いい返事がきたよ。良かったね」。孫たちからも「じいちゃん、ばあちゃん、おめでとう。勉強がんばってね」。

入学の日、私の名前が書かれた名札を、初めて胸につけた時の喜びは、今も忘れません。ところが、5月8日初めての授業が、数学と国語でした。肩にも頭にも力が入ったまま、何がなんだかさっぱり分からないうちに2時間が終わりました。

中央バスターミナルに着くや、疲れと、「私にはついていけない!!」という思いで「じいちゃん、今日でやめるしかないね」。するとじいちゃんは「そうだな。おらたちのくるところではないな。」せつかくの子供たちの好意を無駄にするみたいだけど、仕方ないねとやめることに気持ちは固まっていたのです。家に帰って馬場先生にやめたいと言うつもりで電話しましたが運よく留守でした。

そのことを娘に言ったところ、「たった1回の授業で諦めるなんてあんなに夢見て入学したのだから、もう少しがんばってみなさい」と娘に怒られた。

「じじ、ばば、がんばれ」

こうして学校生活が始まりました。先生も一生懸命、一つでも覚えてもらいたいと熱意が伝わってきた。汗を流しながら教えてくれる顔を見ていたら、私もがんばらなくちゃ。

クラスみんなの笑顔に支えられて「暖かい輪の中にいるよ  
うだね」と二人で話をしていました。

私がんばるぞう。



・遠路通われた受講生の想いを受け、道内各地にひろがる夜間中学

お二人とも小学校に1年行っただけで、農家の子守などの奉公に出ました。のちに旦那さんは、太平洋炭鉱で働きました。卒業の時、ご夫婦に約束したことがあったんです。“釧路に夜間中学つくるからね” なかなか実現しませんでした。2009年釧路に自主夜間中学「くるかい」が設立されました。10年早ければという想いがあります。

こういう方はまだいますよ。2007年に卒業された滝口さん、この方は函館から3年間無欠席で通いました。そしてその2年後、函館遠友塾が設立されたわけです。もちろん1期生の時、すなわち1993年の卒業の中には旭川から通われた坪岡さん、風連から通われた川真田さんがいましたが、15年後旭川遠友塾が設立されました。それから今年3月卒業さ



れた大内理詩さんは室蘭から通って来ました。でも室蘭には遠友塾がありませんので、これからの設立目標ですね。大内さん、ちょっと手を上げていただけませんか？ 皆さん大内さんに拍手してください。（拍手）

札幌市民会館での最後の卒業式

では次にいきましょう。

この写真は2007年の卒業式の記事です。3月22日に記事が載りました。この記事は私が遠友塾の話をしてくれという講演の依頼があった時、必ず使う写真です。この真中の笑顔

の方、実は今日来ておられます。そこにいますよ。近藤朝子さんです。それから左端の方、山本孝子さんです。中国から来ました。その右側が高島秀子さんという方で、山本さんの娘さんです。中国語はしゃべることができましたけど日本語は大変でした。さらに妹さんが遠友塾に入ってきて、今この会場にいます。山本香里さんです。香里さんどこにいますか？（拍手）それから近藤さんの右側にちょっと丸い顔の方、川名花子さんという方です。この方たちに共通しているのは戦争です。すべて戦争というものによって自分の学びを奪



れてきました。それで遠友塾にきたわけですが、戦争は絶対最大悪です。子供の学びを失わせます。そして戦後になってもその保障をすることはなかったわけです。やはり平和が一番大事だと思えます。それからもうひとつ、この期日2007年の3月、実はこの卒業式の時に、この卒業式をもって札幌市民会館は閉鎖になりました。いよいよ遠友塾の苦しみが始まっていたのです。



ナレーション 市民会館閉鎖から向陵中学校へ

案内は3年スタッフ阿部伸子さん

2001年の末に、札幌市は市民会館の改築構想を打ち出しました。その結果、改築後の教室

確保が不透明になったのです。札幌市

教育委員会に問い合わせますが「どうなるかわからない」とのことでした。

その後、先行不明のまま、2006年まで

市民会館で、2007年からは「教育文化会館

で授業を行いました。同時に、増加する

受講生や、安定した教室確保のため、

札幌市と協議を重ねてきました。そして

2009年から現在の向陵中学校での授業

が認められ現在にいたっています。

#### 4. 教室確保の取り組み

2002年の新聞記事によって、私達は初めて5年後に札幌市民会館が耐震構造の問題で

閉鎖になるということを知りました。それで「市民会館がなくなった後に、私達はどこの場所で学んだらいいのだろうか」という問題がわき起こりました。この間、2003年には市民

会館の代わりになる場所を確保してほしいという要望書を札幌市教育委員会に提出しま

した。そして2005年には当時の上田札幌市長が遠友塾を見学してくれました。そして2006年、代替場所としてこの場所、教育文化会館で行うということに、とりあえず決まったわけです。

ここでも実は問題がまた出てきたわけです。市民会館では週1回水曜日、4つの教室を使

って60万かかりましたが、ここは年間110万、しかも1年前先予約、先払いだと、こういう事がありまして、なんとかおねがいを、料金は半額、支払いは前の月でいいことになり

ましたが、その時に私達を感じたのは、そのままいたら僕たちは一体どうなるのだろう、

常に教室の場所の確保をめぐってフラフラフラと不安定のままではいかなければならないの



か。維持するだけでも先程のような問題が出てくるのだから、もっと何とかならないだろうか。そうだ、「学校の教室を使わせてほしい」というお願いをしよう、ということになりました。

それで、2007年に「北海道に夜間中学をつくる会」という会を立ち上げるわけですが、私達は沢山の色々な人たちに要請をしました。弁護士会の方、議員の方、等々。もちろん私達自身も札幌市長や教育委員会の方々に手紙を書きました。もちろん賛助会員の方で書いてくれた方もありました。これが当時の上田市長にあてて書いた「じっくりクラス」の太田繁雄さんの字です。

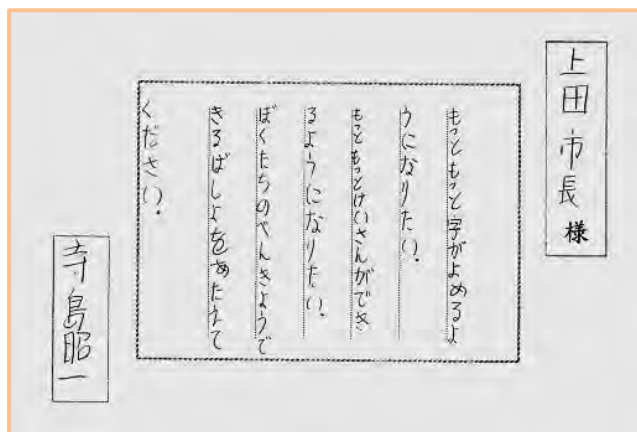
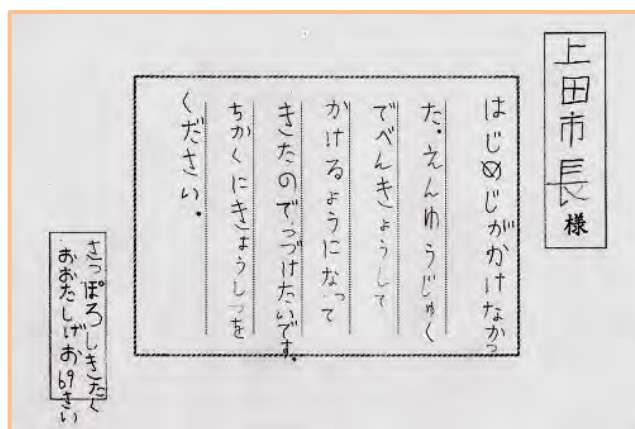
「はじめじがかけなかった。えんゆうじゅくでべんきょうして、かけるようになってきたのでつづけたいです。ちかくにきょうしつをください」

次も同じ「じっくりクラス」の寺島さんが書いたものです。寺島さんどこに座っていますか？ あ、また隠れているな。(笑) これは寺島さんが直筆で書いて市長に送ったものです。「もっともっと字がよめるようになりたい。もっともっとけいさんができるようになりたい。ぼくたちにべんきょうできるばしょをあたえてください」

実は沢山の受講生が手紙を書きました。それで色々な方のお力はもちろんのこと、

受講生自らがこのようなお願いをして、それが実は札幌市の心に響いたようです。それがまず向陵中学校で教室を使わせて頂く一番大きな力となりました。しかし色々な紆余曲折がありました。

先ほど言いました様に教育文化会館に決まった時の半額減免、それから支払時期について、それひとつでも大変な思いをするわけです。これは授業を維持するのとは別に、色々な



市民の人の参加を得て行政と話し合いをする「北海道に夜間中学をつくる会」という会を別  
に作って、条件整備を目指そうということになりました。それでこの時に五項目の要望を市  
と道に上げました。

1つめ、遠友塾のような自主夜間中学に対する支援。

2つめ、全道にある自主夜間中学のセンター校の役割を果たす公立の夜間中学を札幌開設  
すること。

3番目、小中学校への大人の受け入れ。

4番目、自宅から出られない人達のための訪問教育の実施。

5番目、市立病院や区役所などに書いてある難しい漢字にひらがなをふること。

こういう五つのお願いを上げて現在もその活動を続けています。

しかし、その活動の流れの中で2007年10月に札幌市議会に陳情書を出しました。「義務  
教育を受ける機会が実質的に得られていない人たちへの修学保証についての陳情書」と  
いう長い名前です。これが札幌市議会の文教委員会にかかりまして2008年1月、私が陳述  
をさせて頂きました。この時、超党派の文教委員会の議員の方たちが、遠友塾の立場に  
たって札幌市の教育委員会に質問して頂きました。実はこの時の人とのつながりの中で、  
今も議員の方達にお願いしているところです。

・たくさんの方々の応援で向陵中学での授業が実現  
(スクリーンを見て)途中ですよ、これ。2008年5月  
には使える空き教室はないという記事です。どうしま  
す? ここで「空教室でなくていいから週に1回夜を  
想定した授業という具体的な条件で調整してほし  
い。場所は大通駅を起点として地下鉄4つの駅の範囲  
の中でさがしてほしい。」という要望をしました。

そこで、当時の北原教育長、並びに向陵中学校の  
佐藤校長、小原教頭、それから地域の町内会の方、

2008年5月15日  
北海道新聞



PTAの方、すべて力を貸してくれました。私うれしかったのは町内会の副会長の方が、まだ決まっていなかったのですが、「もし市教委が向陵中学校を使わないという決定をしたら、今度町内会が市教委に交渉しに行くから」という言葉まで頂きました。PTAの方も協力してくれました。それから佐藤校長は「今の向陵中学校の生徒にとって遠友塾があって、そこで学ぶ人達を見ると、なぜ学ぶのかということが、とってもいい勉強になるはずだから」という志をお持ちでした。

この結果、これは2009年の2月21日の北海道新聞の記事です。

いよいよ教育委員会の許可がおりて向陵中学校を使わせて頂くことになったので、4月からですね。2月に職員会議に伺って挨拶をしたら、突然、突然ですね、皆さんご存知の遠友塾の看板をプレゼン



トしてくれたんです。驚きました。まったく想像していなかった。この看板、いま向陵中学校の私達が入る玄関の所に貼ってある看板ですよ。で、この看板を作ってくれたのは向陵中学校の当時の“高橋正幸”先生です。それから遠友塾という題字を書いてくれ



た人は、当時栄中学校におられた“競和之”校長先生です。それでこの看板を渡して頂く時に「私たちの感謝と励ましの気持ちです」と看板を渡して下さいました。私はこの時とつきに思ったのは、今までけっこう苦しかったですけど、こうやって人のよなかのあたたかさに触れた時、涙があふれて止まりませんでした。カッコ悪いですが、私泣いていますから（笑）

これは4月に授業するようになって、教材置場にかかげられる看板です。ここでも記事になりました

た。この右側におられる方が当時の小原教頭先生です。現在、校長先生をしておられます。

この記事の中で、当時 車椅子で通っていたじっくりクラスの伊藤フサ子さんがこんなことを述べています。「生まれつきの小児マヒで家が貧しく学校に行く機会がありませんでした。学校の机で勉強するのが夢でした。校門をくぐって通学できるということがとてもうれしい」と述べられました。また小原教頭先生は「遠友塾には全日制に対する定時制とというような形で使ってもらえ。交流も進めたい、遠友塾の皆さんから我校の生徒たちも学ぶことが多いと思います」と。そしてその翌年でしたか、今遠友塾の掲示板が向陵中学校の教室の前の廊下にあります。そこで私がちょっと貼っていた記事を見ていた時に、中学3年の男子生徒が私の方に来ました。何を言ったか「私スタッフになって向陵中学校にもどってきます」そういうことを言ってくれた男子生徒がいたんです。今日、実は後で発表する遠友塾のスタッフは、その彼ではありませんが、向陵中学校出身の方が発表しますので楽しみにしてください。

## 5. 夜間中学の広がりこれから

次に“夜間中学校の広がりこれから”ということで、やはり 2009年4月の記事です。

この顔の人はどなたか判りますか？ 函館  
 遠友塾の今西さんです。今西さんは札幌  
 遠友塾のスタッフをしまして、そして  
 函館の方に行って「作るからね」と言ったんです。そして本当に作ったんです。函館  
 遠友塾を立ち上げたんです。そして続々と。  
 しかしまだまだ行政サイドの考え方はまだまだ、もう一歩のところでありました。それから先ほど言ったように夜間中学をつくる会の五つの要望の中で実現したこともありました。これは今日も来ております「じっくりクラス」の浅野京子さん。浅野さんどこに座っていますか？（浅野さん立つ、拍手）



2009年4月15日 北海道新聞



あさの えんゆうじゅく いったんそつぎょう  
浅野さんが遠友塾を一旦卒業して、また

「じっくりクラス」に入り直したんですが、  
しょうがっこう べんきょう きかい めぐ  
小学校で勉強するという機会に恵まれました。これは遠友塾が教育委員会にお願い  
して実現したものです。川北小学校に1年  
ちか つうがく こども なか  
近く通学いたしました。こういう子供の中で  
あさの て あ ぼめん  
浅野さんが手を上げている場面、こういうこ  
とも一部ではありますが、ひとつ実現しております。

ほっかいどう ひろ まな ば みちか  
北海道はとても広いです。学ぶ場が身近  
ないと通うことができません。あるいは身近  
にあっても、ひざ わる ある  
膝が悪いとか、歩けないという  
ことになると通うことができません。

やかんちゅうがく つく つうがくじょうけんとの  
夜間中学をたくさん作って、通学条件 整  
て、例えば福祉タクシーなどを使って送迎するとか、それから学校の設備もエレベーターを  
そな べんきょう せってい い  
備えるとか、いろんな条件の設定を入れて、はじめて北海道全域にわたる学ぶ場を保証で  
きるわけです。

わたしたち ぜんこくやかんちゅうがくこうけんきゅうかい ぜんこく やかんちゅうがく せんせい まいとし  
そこで私達は全国夜間中学校研究会の全国の夜間中学の先生スタッフと、毎年のように、  
あた ほうりつ つく まな ぼ ほしょう うご はじ いろいろ  
新しい法律を作って学ぶ場を保証しようという動きを始めました。色々なことをやっ  
たんですが、うまくいかなかったからです。実は60年前の第1回全国夜間中学校研究  
京都大会  
ほうせいび けつき きいど ねん がつ けつき こっかいぎいん たい はたら  
で法整備の決議はしておりますが、再度2009年12月に決議をして国会議員に対する働  
きか  
けをはじめてみました。2012年、13年、14年と毎年8月の初旬に国会の議員会館で、沢山の  
こっかいぎいん かた まじ しゅうかい おこな  
国会議員の方を交えて集会を行いました。



戦中戦後 病気で通えなかった心残り 今

# 77歳の小学1年生

■札幌の主婦・浅野さん■

「読み書きを」市教委に思い訴え

夜間中学卒業

「本心に幸せ」

北海道新聞  
夕刊  
2013年  
11月16日

ことは がつ おこな ひだり  
今年は6月4日に行いました。この左から  
ばんめ わたし すわ わたし はなし いただ  
2番目に私が座って、私も話をさせて頂  
きました。基本はまずですね、学校教育の  
ねんれいじょうこう き むきょういくねんれい  
年齢条項ですね。義務教育年齢というの

は6歳から15歳まで決まっているので、後はダメということなんです。しかし、それがいいよ年齢を関係なく、国籍も関係なく、しかも国も地方公共団体もそうした活動をするのは責務として財政措置も講ずるという法案です。ただ法案としてはフリースクールと一緒に今難航しておりますが、次から次から文部科学省の方で新しい方針を出してきています。例えば今まで公立の夜間中学には形だけの卒業証書をもたらちゃったという人は入学できませんでしたが、7月30日の通達でこれから入学できるようになりました。それから自分が卒業証書をもたらたかどうか分からないという人も入学できるようになりました。こういう流れがどんどんきていますし、来年度の文部科学省の概算要求では夜間中学関連予算として約1億円計上という記事が載っています。去年は年間300万、今年は1000万、いよいよ来年は1億円ということです。このように事態は進んでいます。

そこで札幌遠友塾のお願いとしては、公立夜間中学ができたとしても、遠友塾を経由した人の中で、体力的年齢的あるいは様々な事情で通うことができない人もいるだろう。その人たちの義務教育修了の資格が得られないかどうか、今働きかけをしているところです。市教委、道教委、それから文科省にも働きかけをしているところです。まだ時間がかかりますが、「生きてて良かった」と感じて頂けるようにしたいのです。

最後に、先日賛助会員で私の友人、東京にいる平田さんという友人からメールを頂きました。彼は実は数年前に交通事故で半身不随になりましたが、20年の集いの時は出てくれたんですね。こんなメールをくれました。「5年前の20周年に参加させて頂いたことが思い出されます。受講生の皆さんが堂々と発表している様子、ボランティアスタッフの方々の皆さんをサポートしている様子、新鮮なものでした。本来であれば出席したいのですが…」このように25年間この活動を賛助会員として支え続けてくださった方がけっこう沢山いるんです。ですから札幌遠友塾の受講生・同窓生・スタッフの皆さん、決して自分たち一人だと思わないでください。このように支えて下さる方がいますし、この方達も必ず応援してくれています。

5期生の森静枝さんという方がいました。満州から引き揚げてきた方です。この方が卒業した後に、私に手紙をくれました。「遠友塾のことは忘れがたく、胸の内にだきし

めて生きてまいります」という言葉です。これからは、私がこの森静枝さんの言葉を受けて、森さんの言葉をだきしめて、これから北海道の学ぶことに幸の薄かった人たちと共に一歩でもいいから前に進んでいきたいと思います。

ありがとうございました。(拍手)



ぜんどうや かんちゅうがく しょうかい  
全道夜間中学の紹介

くしろ だいひょう かねむらのぶこ  
釧路「くるかい」 代表 賀根村伸子

みな さんこんにちは。ただいま しょうかい いたしました くしろじしゅやかんちゅうがく だいひょう を  
しております かねむら もう ねが ほんじつ ぜんどうこうりゅうかい こと、  
あ 合わせて 札幌遠友塾 さんの 25 周年記念 という かい になって おりますので、 ころ から お祝い  
もう あ 申し上げます。 先程 遠藤 代表 が おっしゃって いました と おり、 かい はじ ころざし  
の が 延々と 今も 引継がれている という こと 事に 深く 感動 いたしました。 まこと すばら こと おも  
います。

くしろ ねんまえ えん 7 年前 ご縁 を いただき ました、 釧路 にも 夜間 中学 を 作る ことが できました。 その 折り  
じよげん を いただき 大変 感謝 しております。 その 当時 の 工藤 代表、 皆様 ありがとう ございま  
げんざい きょうだいこう した。 現在 も 兄弟 校 という か 温 かく 見守 っ て 支 えて 下さ っている こと に 深く 感謝 して おり  
ます。

くしろ へいせい ねん がつ かいこう ことし ねんめ とうしよ めい こ  
釧路「くるかい」は平成21年5月に開校して今年7年目になります。当初50名を超え  
がくしゅうしゃ くるかい いろいろ 入れ 替わり も あり 現在 20 名 ほど 通 っ て 来  
て おります。 当初 から の 方も おりますが、 さいきん ふうふ はい がた いくくみ き  
て、 仲睦まじく 学ん で おります 姿 が ほほえましく 思 われます。 国語 では、 大きな グループ  
は 6 名 の 学習 者 さん に スタッフ が 2、3 名 入 る こと が あり ます。 この グループ は 勉強 が 進  
んで います、 しょうせつ よ さくしゃ お た しょうがい つう かんが かたなど まな も じ なら  
う だけ で は なく、 人間 の 生き 方 を 自ら に 問 う 学 び も 多 く して います。 また 個別 の テーブル  
では 漢字 の 書き 取り だけ だ っ た と ころ が、 こえ だ よ がくしゅう はい かた  
た 奥様 と 共 に 今年 から 通 い 始 め た 方 は、 さいきん 「くるかい」 に ある 教科 書 を 家 に 持ち 帰 り、 奥  
さんが 食 事 を 作 っ て いる 間 に 声 を 出 して 読 む 練 習 を して いる と 聞 きました。 つぎ つぎ  
か かわ っ て いく の か と 思 いた した が、 同 じ と ころ を 何 回 も だ っ そ う です。「この 練 習 が 自分 に  
おぼ れんしゅう 覚 える 練 習 に あ っ て いる」とい う こと です。 また 別 の テーブル では、 大 学 生 が 専 属 で 年 配  
かた くだ がくぎょう こ と き やす と き かんが こま  
う 多 め に プリ ント を 作 っ て お いて くれ る の で、 じしゅう かんが お つ  
べんきょう はげ がくせい かんしや くしろきょういくだいがく がくせい  
勉強 に 励 ん で くれ っ て いる の で 学 生 さん に も 感謝 して います。 釧路 教 育 大 学 の 学 生 さん が

開校当初から沢山協力してくれました。それが、立上げの時から事務局長の添田さんが転勤で九州に戻ってからは、「学生さんに声掛けしてくれる方がいなくなったら」と心配していましたけれど、その当時から通ってくれている「くるかい」の学生スタッフが教育大の他の仲間達に声を掛けてくれて、「くるかいボランティアサークル」というのを立ち上げてくれました。そのサークルで人数がどんどん増え、来られるときに来るという形なんですが、本当に一生懸命、そして優しい心遣いで学習者さんに関わってくれるので本当に嬉しく思っています。次に英語ですが、英語もグループになって勉強しますが学習レベルに違いがあります。支援者ひとりから2人に対し学習者さんは5人と多いんです。前はもう少しスタッフがいたんですが、転勤とか地方に移ったりして少ないんです。それで教えるのに難しい場面もあるんですが、英語の先生はベテランなのでごく話を盛り上げてくれたり、いろんな形をかえて進めてくれていますので助かっています。その中で、学習者さんでこれから発表する中新井田さんがいます。中新井田さんは勉強熱心ですが、お仕事で忙しいときもあります。毎回必ず来るといのは難しいでしょうけれども、来られた時にはスタッフの役にまわって関わってくれることもあるので非常に心強い方なんです。

「くるかい」は1部2部という形で、早い時間遅い時間として勉強しております。2部はお仕事を持っている方、あるいはちょっと人と関わるのが苦手だという方が来ています。今是不登校していた子ども達ですけれども、通信制の高校に通いながら勉強を続けています。高校に行っていますので私たちがもうあまり教えることも無いんですけれども、殆ど休まず通ってくるんです。今まで学び続けていた場所が安心できるということと、分からない所も出てくるのでその時に、大学生が気軽に教えてくれるという安心感と。本当に90分という長い時間だと思おうので、休憩しようと言うんですけれども。最初は勉強しようという意欲はそんなに持てなかったと思おうんですが、今は高校生になって意欲的に勉強して本当に休まず机に向かっています。

こうして週1回の「くるかい」という学習会の時間は流れていくんですけれども、ここ1年の間に別れというのが続いていて淋しい思いもしています。事務局長であった添田さんが離れたり、ベテランの先生なのでこれからスタッフと期待していた先生が離れたりとか。そのような事が多くて、私たちスタッフも人数が少なくなって不安というか、心細い

ところもあるのですが、今のところ大学生の皆さんに支えてもらっていますので何とかやりくりして頑張っています。一般の方にも関心はあるのですが、なかなか「支援」というのに躊躇していらっしゃる人もいるのかなと思いますし、すごく想いを持っている人でも仕事が忙しいとなかなか実現できないとも思います。

最近嬉しいことがひとつあったんです。以前は学習者さんとして参加しておられた方が、そんなに長く勉強に来ていた訳ではなかったのですが、考えるところがあって休みがちだったんです。その方がしばらくしてひょっこり顔を出すようになりまして、ちょこちょこ来ている間に「自分が学習者ではなくスタッフの支える側で何か出来ないか」という話になりまして、今はお茶汲みみたいな事ですけどもお手伝いをしてれています。

話が長くなりましたけれども、そういう「くるかい」と私もひよんなことから添田さんと知り合いました携わるようになりましたが、人生は欲張らなければ発見とか楽しみもあるものだという事を多くの学習者さんに関わった中で教えられた気がします。

これからも札幌遠友塾さんの兄弟校として末永くよろしくお願いいたします。最後に昨年作った七夕があるんですがそれを見ていただいて終わりにしたいと思います（会場後方パネル展示の七夕作品を前面で披露）。

## 函館遠友塾 野口 誠治

函館の野口です。後の時間もあるでしょうから手短にすませますので、ご辛抱の程をお願いいたします。函館遠友塾の事務部を担当しています野口といいます。函館の抱えている課題を少し話をします。先程も紹介しましたが、7年。一昨年は5年。盛大に祝賀会をやりました。やりましたけれど実は、遠友塾は入ってくる塾生さんあつての遠友塾だと私は考えていますが、困っている事があります。最初の年、困ったことに50人を越えました。「ごめんなさい。これ以上増えたら教室に入れないから、来年に回って」と次の年に回ってもらいました。次の年半数になり、3年目はまたその半分になりました。今年の入学式に両手にならない4人。今の3年、卒業する人Vサイン（2名）です。来年下手すると……。でも、教室は成立しています。なぜか？卒業証書もらっている人そこにいるんだよね。春になったら「あんたこないだ卒業した人でないの？」「うん、もう一回勉強

したいから」って。1年生からやる人もいるし、3年生だけでも1年生やる人もいる。いつの間にか。なので、函館は卒業しても「何処の学年でも入っていい」ってことにしたんです。

「ちょっと勉強したいから」って帰す訳にもいかないから、「仕方ないからいいよ。その代わりに勉強のことで質問とか、変なこと言わないでよ。おとなしく1年生と一緒に入ってきた人と勉強して」って。

一番最初に卒業した人一番元気かも知れない。と言ったら怒られるかもしれない。「何言ったのよ」っていわれても困るけど、来ている人達皆元気です。少なくともはなっているが、じゃあ何もやっていないのか。実はやっています。さっきも代表、新聞ネタになっていましたね。卒業式、入学式、その他もろもろ北海道新聞、地元の函館新聞。一時期ブンヤさんもスタッフでいたこともありましたが、現役の新聞記者がちょこっと手伝って加入したこともあったんですけど、残念ながら忙しくてそれどころではなくなって。それから地元FMイルカというラジオ放送局があります。そこにも生出演したのですが、なかなか塾生の希望者がいないということは、函館はすごく人口減している。毎年3千人いなくなります。と言う事はいなくなるのは多分若手20代くらいの方がボコボコいなくなります。それ以上の人は定住しているのですが、でも人口減は現実としてありますので、そのために一生懸命ラジオに出たり新聞ネタになったりしたんですけど。昨年、一昨年あたりから塾生さんから「このままでは遠友塾もたないね。無くなったら困るね」要するに自分来たいからだと思うんですけども「何か募集していくチラシなんか無いの?」「あるある」「じゃあそれちょうだい。私配るから友達に」って。それだけなら何だからって、大きなポスター作って貼ったりして。それを見て一人二人引かかって、(怒られるかな)応募してくれています。だから、全く意識が無い訳ではないんでしょうけれども、なかなか増えないのが現状です。でも、聴講生という形で卒業した人たちが残っていますので、各教室10何人いますので、教える方としてはまあまあやりやすいかな?あいているスタッフが3人も4人も居てどっちが教えているのか分かんなくなっちゃう位。その辺は程ほどにいて助かっています。

うちの代表今西、一番最初に掲げた方針というのは「戦中、戦後に勉強できなかった人おいで」って言ったんですけど、どうも戦中、戦後はずしたほうがいいんじゃないかって

いうスタッフの声こえもありますので、多分たぶんおいおいこれ無なくなるんじゃないかと思おもいます。だから「勉強べんきょうできなかったんだけど今一度いまいちどやりたい人、勉強べんきょうやったけどはるか昔むかしにやったけど忘れわすちゃったからもう一度いちどしたいという人」そんな人たちが来てくれたらいいな。そしてもう少し、函館遠友塾はこだてえんゆうじゅく「ワーこんなにいるの。嬉しいな。皆元気だな」ってスタッフも張り切はって毎週通えるような遠友塾えんゆうじゅくになってくれると、続つづいてくれたら嬉しいなと思おもっています。雑ざつぱくですが函館の課題かだいを終わおります。

## せいかつたいけんはっぴょう 生活体験発表

### 「これまでの私」 石岡 愛子 (札幌遠友塾 受講生)

わたし 両親りょうしんと4姉妹しまいの6人家族にんかぞくでした。私わたしは3女じよです。一人遊びひとりあそびの好きな子すでした。  
しょうがっこう へ入学にゅうがくしても友達ともだちは出来できませんでした。無視むしをされていじめられていました。もう  
がっこう もきらいで勉強べんきょうもきらいでした。こんな私わたしでも小学校しょうがっこうは卒業そつぎょうできました。母親ははおやに  
「学校がっこうに行いってくれ」とお願いねがいされて中学校ちゅうがっこうに行くこといにしました。  
にゅうがく5日目、先生せんせいから「石岡いしおかさん国語こくごの本ほんを讀よんでください」と言いわれて読よめませんで  
した。胸むねが痛いたくなりました。それからちゅうがっこうは中学校ちゅうがっこうに行くことできませんでした。親おやに反はん抗こう的てき  
になり、今いまで言いうつぱりの仲間なかまに入りははおやました。母親ははおやに心しん配ぱいをしんかけてばかりいました。16  
さいのとき菓子店かしてんで働はたらくことしごとになりました。仕事しごとはパック詰づめでした。みんな親しん切せつにしてく  
れて友達ともだちも出来できました。楽たのしく仕事しごとをしてねんいました。2年ねんでやめはることはになりました。母はの  
みせ 店みせで働はたらくこときになりました。そこだんせいに来てしいた男性あと知さいり合けっい23歳こんで結ふ婚たりして2人こ子ども  
がおできました。その夫おは暴ぼう力りょく夫おでした。私わたしを頭あからおさなえつなけて何なにも出来できませんで  
した。そんな夫おでした。40年ねん一いっ緒しょに暮くらしてげんかいがき来きました。姉あがあねさつぼろす  
したので、そこいに行くことにしましました。いろいろな人ひとに世せ話わになりり離り婚こんがいえ  
借かりて一人ひとりきりになると急きゅうに不ふ安あんになり、これせいかつからの生活つづをどなのようなに続つづけていいけばよい  
か眠ねむれない日ひがつづきました。そんな私わたしを見みて、姉あが「仕事しごとをさいがいそう」と言いってくれまし  
た。ハローワークいに行いき、履り歴れき書しょの書かき方かを姉あに教おえてかもらい書かきました。仕事しごとは北ほく大だいの清せい掃そう  
に決きまりました。

自分は字も書けない、読むことも出来ないことをお世話になった人に打ち明けました。その人が工藤朱美さんを紹介してくれて遠友塾へ入ることになりました。学ぶ楽しさを教えてくれました。先生とスタッフ、じっくりクラスの皆さんのお陰です。勉強が好きになりました。遠友塾も好きになりました。平成24年に家を出て新しい一歩を踏み出しました。これからは楽しく明るく笑顔で暮らしたいと思っています。ありがとうございます。

かめざわ しずか さつぼろえんゆうじゅくじゅこうせい  
亀澤 定 (札幌遠友塾 受講生)

皆さん、こんにちは。札幌遠友塾3年生の亀澤と申します。私は人の前で話した事がございませんので、皆様に分かりやすく聞こえないかも知れませんが、よろしくお願ひします。

まずは私の故郷、対馬をちょっとご紹介いたします。対馬は長崎県になります。この対馬の50キロ先の韓国の山々を晴れの日にはかすかに見ることが出来ます。つまり国境の島です。隣の壱岐と合わせて壱岐・対馬国定公園になっています。この島は、四国とか九州のよな広さこそありませんが、佐渡と同じくらいの広さがあります。厳原がその中でわずかに小さな平地で、ここが対馬の政治・文化・教育の中心です。

私の就職・体験についてお話します。中学校卒業後すぐに地元の会社に勤め、配達の仕事をしていましたが2年で退社。その訳は、北海道に行き牧場での仕事がしたく、馬や牛を育てていくのが夢でした。それが親の反対で叶えられず、残念でした。目標が無くなり、私にできる仕事は何かと考へて職安に行き仕事が決まるのですが、私の頭では就職口も限られて狭き門でした。仕事はクリーニング店、所は福岡県の久留米市篠山町の海運舎クリーニング店です。見習いとして就職。厳原から朝8時に周航して博多まで8時間、それから久留米まで2時間。そこに着いたのは夜の7時です。今は厳原から博多まで、フェリーで4時間で着くそうです。その日の夜に仕事の内情を聞きその時に、偉いところに来たと思いました。内容は、朝6時半起床。その一、外の掃き掃除。その二、庭の掃除。終わると食事。休みは月2回。1日と15日定休。但し見習いはゆうべの洗濯物を朝干して、夕方乾くと取り込み、明日の仕事の段取り。それは、Yシャツ、ブラウス、シーツなど、みずさおしめまるぬのつつかごならあしふやすいちちちお水で竿を湿らす。それから丸めて布で包んで箆に並べ、足で踏み、それで休みの一日が終わり。この店には職人さんが2人、2年目の地元の先輩と合計4人で、休みの日になると、

職人の2人は朝早く出掛け、先輩は休みの前の晩に実家に帰るので、朝の食事は私1人。

昨夜の残り物で味噌汁と漬物だけそのまま置いてある。私の家には犬と猫と飼っていたが、

食事を与える時には声を掛けていた。見習いとはいえ、さびしい思いをした。休みの日には

ここで食事をする事はなかった。その時の月給500円を月2回の食事代4回分に分けて

過ごしていました。辛い思い出です。休みの日は皆、楽しいそうです。私は楽しくなく頭

痛いぐらい。天気の日も筑後川の土手で寝ころびながら故郷思い、雨の日も国鉄の駅の中で、

一食代牛乳1本10円、パン1ケ10円、計20円で休みの日は過ごしていました。

余談です。私にはこの店はない。就職して4ヶ月目の8月に大雨が降り筑後川が

氾濫、久留米の町は水浸し。我が家も家の軒下まで水に浸かり、家に障害物が当たると家が

小船の如く揺れて大変でした。私も被害を受け、箆笥に入れていた服も流され大事なもの

は無くなる。そんなこともありました。

次に遠友塾への思いについてお話します。私が長い間探し求めていた学校が、基礎から

学びの原点、それが自主夜間中学でした。私は中学校は卒業はしていますが、勉強は

殆んどしておりません。後で述べますが、それからというもの勉強は殆んどせず、遊びに

夢中でした。夏は海へと、秋は山へと。それは辛いことを忘れる為でした。

私が小学校4年生の夏休み前頃父親が亡くなり、それが原因だと思えます。それで文盲

の私になりました。日曜日は海が見える山に登り、水平線に太陽が沈むのを見届けて家路に。

これが私の履歴書です。

何時も頭のどこかで基礎から勉強したい、習いたいと思っていた所にふとした事で厚

別区民センターで遠友塾自主夜間中学を知り、生徒募集のパンフレットを見て、私が2

0年間探し求めていた学校と思えました。ようやく夢に見た学校、学びの原点、札幌遠友塾、

万歳。これからは肝に銘じ、一生懸命教えるを大事にしていきます。感謝感謝です。

先生、スタッフの皆様のおかげで1年より2年目と、振り返って見ると自分ながら進歩してき

ました。目標に向かって頑張ります。関係者の皆様、私が大変だと思ったのは或る日、

寒い寒い冬の雪がちらつく夜、下の教室の入り口がまだ開いてなく何時までも待つて居ら

れる姿を見た時です。私たちは改めて感謝を述べます。先生、スタッフの皆様のご気兼ね

の要らない、独立した学校が一日も早く、公立の夜間中学が実現することをお祈りします。

まつむら なおこ さつぼろえんゆうじゅくじゅこうせい  
松村 直子 (札幌遠友塾 受講生)

わたし えんゆうじゅく し ねんまえ くやくしょ しら ご ねんま  
私が遠友塾を知ったのは、6年前のテレビです。区役所で調べてもらい、その後1年待  
ちでした。がっこう い べんきょう で き とき けんがく し  
学校に行けず、勉強が出来なかった。そんな時に見学があることを知りさっそ  
くけんがく げんき がんば すがた いんしょうてき やかんちゅうがく  
く見学させてもらい、みんなの元気で頑張る姿はとても印象的でした。夜間中学がある  
はなし ほんとう うれ おも まち ま おも びょういん ぎんこう りれきしょ だ  
話は本当に嬉しい思いで、待ちに待った思いでした。病院とか銀行など履歴書を出すのに  
たいへん おも とき しゅじん おうえん  
大変な思いがあり、ある時は主人に応援をもらうこともありました。

なかしべつ かつたり き しゅうせん とき わたし さい しょうがっこう  
中標津をはなれ屈足に来て終戦をむかえたのです。その時の私は10歳でした。小学校  
も行ったり休んだりでした。しょうわ ねん けっこん さつぼろ せいかつ はじ がっこう  
も行ったり休んだりでした。昭和34年に結婚して札幌での生活が始まりました。学校  
きゅうしょく しごと がいしゃせいそうなど はたら こ どもが う 生まれ おお  
給食の仕事とか、ビール会社清掃等をやり働きました。子どもが産まれ大きくなってく  
ると何やかにやと聞かれることが多くなり、困ることがしばしばでした。よみ か  
読み書きがあまり  
にも出来ませんでしたがいま じかん あ やかんちゅうがく あし はこ ひと あたた  
にも出来ませんが今は時間が有るので、夜間中学にと足を運ぶようになり、人の温  
かさき 勇気もらい。また漢字など一字でも分った時はやる気を出したのですが思うように  
なりません。

くしろ ぜんどうたいかい さんか とまど しゅうがくりょこう きぶん  
釧路の全道大会に参加したときもちょっと戸惑ったのですが、修学旅行のような気分  
なり、みず ま ころ がくせいきぶん たの わか きも ひと たいわ たの  
なり、水が増すように心が学生気分でした。若い気持ちになり、人との対話も楽  
しんで、しゃかいべんきょう で き じぶん ちょうせん さいこう だ から がっこう かよ まえ  
社会勉強も出来、自分らしく挑戦できるのが最高です。だから学校に通って前に  
すす 進む。

このようにたいけん できることがありがたいです。ほんとう めぐ こと かんしゃ えんそく  
このように体験できることがありがたいです。本当に恵まれている事に感謝です。遠足も  
あおぞら もと しよくぶつ で あ はななど べんとう とき など  
青空の下で、いろんな植物に出会い花等ながめて。お弁当の時はみんなでのおしゃべり等、  
わら ねんまつ たの かい うた すんげき  
笑いがはじける。年末にはお楽しみ会もあります。歌ったり寸劇などやりとてもにぎやかで  
す。これもスタッフの方々との出会いと先生方のお力添えです。ほんとう  
す。これもスタッフの方々との出会いと先生方のお力添えです。本当にありがとうございました。

「まがりみち ある 歩きつづけて はな さ 花が咲く」

やまや りょうた さつぼろえんゆうじゅく  
山谷 亮太 (札幌遠友塾 スタッフ)

こんばんは。さつぼろえんゆうじゅく しゅうねん  
こんばんは。札幌遠友塾 25周年おめでとうございます。

わたし えんゆうじゅく げつほどけいか わたしじしん ゆうじん しょうかい えんゆう  
私が遠友塾のスタッフになってから4ヶ月程経過しました。私自身、友人の紹介で遠友



塾のスタッフになることを決心しましたが、母校が向陵中学校と言うこともあり以前からこの夜間学校のことを知っていました。

そんな私がこの遠友塾に来て驚いたことが二つ有ります。一つ目は受講生さんの勉強へのやる気です。受講生さんは18歳の私より人生の大先輩であるのに、意欲的に楽しく授業に参加されていて毎週刺激を受けています。さらに皆さんの姿勢にも驚きました。

私は個別指導のバイトで中学生を教えているのですが、机に寝そべったり、悪い姿勢で椅子に座るなど集中力が欠けているように思えます。しかし受講生さんは美しい姿勢で座っています。それは意欲的に集中して勉強に臨んでいるということです。正しい姿勢の人たちの中に居ると我々も緊張感を持つことができます。緊張感を持って勉強することは例えば、数学の計算ミスが減るなど良いことが沢山あります。受講生の皆さん、これからも私と緊張感を持ちつつも楽しく勉強していきましょう。二つ目の驚いたことはスタッフの皆さんのやる気です。私はスタッフの皆さんを心から尊敬しています。

私は社会の授業で「5分授業」というものをやり、マスコミの報道の自由についてお話をしました。そこで私は伝える事の難しさに直面しました。もちろん今も悩んでいます。そんな時にある社会科の先生に「何か一つでも伝えれば十分だ」と言われ、心がすごく楽になりました。他のスタッフの皆さんの授業は「受講生さんに楽しい授業を」という思いが詰まった素晴らしいものです。そして授業後のミーティングではもっといい授業をという思いから、時には強い口調で言い争うこともあります。これはやる気の表れなのでいいことだと思います。これからもそれぞれのやる気をぶつけ合い、いい授業を作り上げましょう。

遠友塾のスタッフとなり私は教育の大切さに興味を持ちました。現在、世界には教育を十分に受けられない子ども達があります。それどころか、生きることすらままならない子どもが沢山います。人間とは教育を受けることで学ぶ楽しさを知ります。

そこで私の決心として十分な教育を受けられない子ども達を少しでも減らす手助けをしたいです。そしていつかはこの国を背負う人間になります。

なかにいだ　みのる　くしろ　がくしゅうしゃ  
中新井田　稔（釧路「くるかい」学習者）

みな　くしろ　じしゅ　やかんちゅうがく　がくしゅうしゃ　なかに　いだ　みのる  
皆さん、こんにちは。釧路自主夜間中学「くるかい」学習者、中新井田稔です。よろ  
しくお願ひします。大勢の前で話す事は不慣れなため、お聞き苦しい点があるかもしれませ  
んがご了承ください。それでは始めさせていただきます。

まいとしほんや　はる　おとず　とも　こうれい　えいご　なら  
毎年本屋さんには、春の訪れと共にNHK恒例の英語テキストがたくさん並びます。と  
りわけ英会話に興味がある私は年間を通して「今年こそ、ラジオ英会話を聞き続けよう！」  
と決心してテキストを買うのですが、ゴールデンウィークが過ぎ去った頃には、だんだん手  
ごたえも怪しくなり、「くるかい」に入学するまで何度も何度も途中で投げ出したものです。  
「やはり独学で英語を勉強し続けるのには無理があるのかな～？」とか、「みんなと共に  
勉強すれば意外と続くのかもしれないから、民間の英会話スクールにでも通学しようかな  
～～？でも～長続きしなかったらお金も時間も、結局無駄になるだけだし～・・・」な  
どと、そういった言い訳をし、結局自分自身悶々としながら過ごしておりました。

やさき　こうみんかんだ　こうきょうしせつ　た　よ　じしゅやかんちゅうがく　は  
そんな矢先、公民館等の公共施設に立ち寄ると「自主夜間中学くるかい」と貼られたポ  
スターに目が止まりました。国語、算数、英語などを夜に皆で学習しているサークル内容の  
事が書かれていました。社会人になってからも一度最初から学習したいという動機にか  
られた方ならご存知かもしれませんが、日常英会話をマスターするなら、中学で習う英語  
内容を何回も何回も繰り返し総復習するのが近道と私も聞いていたので、自主夜間中学  
「くるかい」の門を勇気を出してくぐりました。見学させてもらっている間、私には誰一人  
知り合いもいなかったの、一人で自習していましたが、大学生の方や、仕事を終えた後  
勉強を教えている支援スタッフの方たちが、私に気さくに話しかけてくれたおかげ  
で、すっかり「くるかい」の雰囲気打ち解け入学が決まり、英語学習グループのメンバ  
ーの一員として現在もこうして「くるかい」にお世話になっております。「くるかい」では、  
ねんばいしゃ　じゃくねんしゃ　せいべつ　と　わ　き　たの　わたし　なかま　ひとり　う　い  
年配者、若年者、性別など問わず和気あいあい楽しく私を仲間の一人として受け入れてく  
れました。「くるかい」に入学して4年が経過しますが、おかげさまで1日15分程度のラ  
ジオ英会話も毎日欠かさず聞く習慣を身につける事が出来ました。これもひとえに「くる  
かい」のおかげです。ちなみに、一緒に英語を学習する仲間の一人には、私の父親くらい  
の年齢の方が居りますが、毎週欠かさずに「くるかい」に参加しています。その継続力、

こうがくしん あたま さ おも いっしょ まな ほこ おも そんけい  
向学心には頭が下がる思いで、一緒に学ぶことを誇りに思っていますし、尊敬しており  
ます。そして、えいご おし せんせい たの そうだん まじ じゅぎょう すす  
英語を教えてくれる先生も楽しく相談したりユーモアを交えながら授業を進  
めてくださるので、わたしじしんいしゆく ふたん まいかいさんか たの  
私自身萎縮したり負担にならず毎回参加するのを楽しみにしています。  
また、ひごろ など しゅつせき とき じしゆてき べんきょう  
日頃のストレス等で出席できなかった時も「くるかい」は、自主的に「勉強したい！」  
といういよくがあれば、いつでもきもちよく受け入れてくれるところです。いろいろ しごと  
色々な仕事などで  
いそが とちゆう なかまたち ふたたび  
忙しく途中サボりがちになっても、仲間達がいてくれるので、再び「くるかい」にくるか  
い？と、こえ か しょうがい とお がくしゅう わたし つよ じっかん  
やさしく声を掛けてくれる生涯を通した学習サークルだと私は強く実感してい  
ます。これからも「くるかい」のとも べんきょう じぶんじしん せいちょう い  
皆さんと共に勉強して、自分自身も成長して行けたら  
いなとおも  
いなと思っています。

せいちょう  
ご清聴ありがとうございました。

しょうじ はるみ はこだてえんゆうじゅくふくだいひょう  
東海林 晴美（函館遠友塾 副代表）

こんにちは。はこだて き しょうじはるみ だ はこだてえんゆうじゅく  
こんにちは。函館から来ました東海林晴美です。（ネームタグを出し）これ、函館遠友塾  
のネームタグです。スタッフもせいと せいと ほんらい いまにしだいひょう ほうこく  
スタッフも生徒さんもするんです。本来ならば今西代表がここで報告す  
るよてい じごと かんけいじょうつごう こ  
予定だったんですが、仕事の関係上都合がつかず来られなくなりましたので、代わりに  
わたし みな はこだてえんゆうじゅく かつどう ほうこく ほんだい はい まえ さつぼろえんゆうじゅく  
私が皆さんに函館遠友塾の活動を報告させていただきます。本題に入る前に、札幌遠友塾  
25周年おめでとうございませう。けいぞく ちから はこだて おも  
25周年おめでとうございます。継続は力ですよね。函館もそうなればいいなと思ってい  
ます。きょう はこだて めい じゅくせい めい ごうけい めい さんか さくねん  
今日は函館からスタッフ5名と塾生さん2名、合計7名で参加しています。昨年  
えんゆうじゅくぜんどうたいかい えんろ はこだて くだ ぜ ひ  
遠友塾全道大会では、遠路はるばる函館にいらして下さってありがとうございました。是非  
またいらしてくだ  
またいらして下さい。

はこだて かつどう しょうかい はこだてえんゆうじゅく くしろ おな へいせい ねん  
それでは函館の活動の紹介をさせていただきます。函館遠友塾は釧路と同じ平成20年  
はじ ねんめ そつぎょうせい にん がつ にち  
に始まりましたので7年目になりました。卒業生は67人です。そして8月19日から2  
がつき はじ みな いっしょうけんめいがんば き じゅくせい へ  
学期が始まりました。皆さん一生懸命頑張ってきています。だんだん塾生が減って  
き ちようこうせい くわ けつこうかつき じゅぎょう てんかい じゅぎょうないよう ほか  
来ていますが、聴講生を加えて結構活気のある授業が展開されています。授業内容は他と  
ほと いっしょ こくご すうがく りか しゃかい えいご さくねん ほしゅうじゅぎょう はじ  
殆んど一緒に国語、数学、理科、社会、そして英語です。昨年から補習授業も始めました。  
ちよっと じゅぎょう い とくべつ じかん もう ほしゅうじゅぎょう かたち  
ちょっと授業について行けないということもあり特別に時間を設けて補習授業の形をと  
っています。まえ りか じゅぎょう ふ ほ せいと こえ あ  
この前「理科の授業を増やして欲しい」という生徒さんの声が上がりました

が、決まった時間の中で授業時間確保するのに「いや国語を・・・いやいや英語を増やして欲しい」とスタッフからあるんですけれども、限られた時間内で一生懸命やっています。毎月1回スタッフ会議の中で塾生さんの反応など皆で共通認識するようにしています。

行事ですが春、秋の遠足・クリスマス会・卒業式・入学式が大きな行事です。今年春の遠足は初めて平日に行ないました。今まで日曜日開催だったのですが。なんと、函館市議会見学(議会の開催が無く議場のみの見学でしたが)と日銀函館支店に見学に行きました。平日でしたが生徒さんもスタッフも多く参加し、市議会議場では議長の椅子に座ってみたり、日本銀行では1億円の束を持ってみたいりして、なかなか普段出来ない経験が出来たのではないかと思います。一生懸命勉強した後は、北海道初の洋食レストランで有名な老舗五島軒で、真っ白な糊のパリッと効いたテーブルクロスに並んだ、見た目にも素晴らしい洋食を皆で楽しんで、本当に楽しい1日でした。これは本当にいろいろ担当して下さったスタッフと生徒さんの参加で盛り上がったんだと思います。

こういう活動をしているのですが、抱える問題としてあるのは、生徒数の減少というものもあるのですが、これだけではなく、スタッフも高齢化してしまっていて、国語科は2名のスタッフで3学年教えている現状です。スタッフの確保も課題かと思っています。

本来ならば塾生さんからの体験発表も、と思ったのですが、初めての場所でちょっと難しいということでお名前だけ紹介します。(会場に居られる)2年生の星川セツさん、1年生の常本博子さんです。

最後に、今年の春に文集をつくりましてタイトルは「I'm Here」です。ドラマの主題歌もあるんですがこちらの方が早いです。「I'm Here」は英語の時間に出席を取るときに、生徒さんがいっぱい居るわけではないので誰が来ているのかは分るのですが、名前を言ったときに「I'm Here」私はここにいますよ という風に英語を話す授業なんです。そういう風な授業なんですが、文集発行者がタイトルに採用してくれました。というような活動なんですが、函館も札幌のように長く続けられるといいなと思っています。簡単ですがこれで函館からの報告を終わります。